

本書の構成

巻頭言

第Ⅰ部 SGH 事業の概要

1. 本校の SGH 構想
2. シリオ・プランニング（SP）への道
PEST ゼミ・講演会・特別授業等
3. 事業展開
行事予定表
4. 運営指導委員と連携先

第Ⅱ部 一年次報告

1. オリエンテーション・G-Mission
2. 講演会・特別授業
3. Field Work（フィールドワーク）等
4. PEST ゼミ
 - 1) Political（政治学的分野）
 - 2) Societal（社会学的分野）
 - 3) Economic（経済的分野）
 - 4) Technological（科学技術的分野）
5. Global English
（グローバル・イングリッシュ）

第Ⅳ部 資料編

1. 構想調書の概要・概念図
2. 講演会・特別授業
3. Field Work（フィールドワーク）等
4. PEST ゼミ
 - 1) Political（政治学的分野）
 - 2) Societal（社会学的分野）
 - 3) Economic（経済的分野）
 - 4) Technological（科学技術的分野）
5. Global English
（グローバル・イングリッシュ）
6. ポスター発表
7. その他

第Ⅲ部 成果・評価・展望

1. 成果
2. 評価
3. 展望

編集後記

－目次－

		ページ	
本書の構成		1	
目次		2	
巻頭言		3	
第 I 部 SGH 事業の概要		5	
	1. 本校の SGH 構想	6	
	2. シナリオ・プランニング (SP) への道	7	
	3. 事業展開	8	
	4. 運営指導委員と連携先	9	
第 II 部 一年次報告		11	
	1. オリエンテーション・G-Mission	12	
	2. 講演会・特別授業	14	
	3. Field Work (フィールドワーク) 等	16	
	4. PEST ゼミ	1) Political (政治学的分野)	18
		2) Societal (社会学的分野)	20
		3) Economic (経済的分野)	22
		4) Technological (科学技術的分野)	24
	5. Global English (グローバル・イングリッシュ)	26	
第 III 部 成果・評価・展望		29	
	1. 成果	30	
	2. 評価	32	
	3. 展望	34	
第 IV 部 資料編		37	
	1. 構想調書の概要・概念図	38	
	2. 講演会・特別授業	42	
	3. Field Work (フィールドワーク) 等	44	
	4. PEST ゼミ	1) Political (政治学的分野)	48
		2) Societal (社会学的分野)	52
		3) Economic (経済的分野)	54
		4) Technological (科学技術的分野)	58
	5. Global English (グローバル・イングリッシュ)	60	
	6. ポスター発表	64	
	7. その他	66	
編集後記		68	

巻頭言

清風南海高等学校
校長 平岡 正巳

本校は平成 25 年に創立 50 周年を迎えました。この半世紀の大きな節目を機会にキャンパスを一新すると同時に、従来の教育に第三千年紀にふさわしい教育の新生面を付加したいと考え、グローバル教育検討委員会を発足させました。その答申を受け、平成 27 年度より併設中学校から高等学校に進学する生徒を対象にグローバル・コースの設置をいたしました。

本校は従前から海外の姉妹校を通じて、先生・生徒の交流を盛んに実施しております。英国に 2 校、豪州、中国、フィリピンには各 1 校ずつあり、中でも豪州のブリスベーン・グラマー・スクール (BGS) との交流事業は、冬休みに BGS から交換留学生在が来航し、夏休みに本校から BGS を訪れるという形で 28 年間続いています。

昨年、文部科学省のスーパー グローバル ハイスクール (SGH) 事業の募集に伴い、その要項に従って新規のグローバル・コースのカリキュラムを整備して申請し、幸いにも SGH の認定を受けることができました。文科省の指導方針に基づく 5 年間の指定期間は、本校のグローバル・コースを盤石なものにするための貴重な期間であると考えています。

一昨年、高校生の希望者を対象に TOEFL iBT の講座を、中学生の希望者を対象に TOEFL Junior の講座を放課後に開講し、新しい施設のもとネイティブの先生を中心に指導していただきました。なお、グローバル・コース生 78 名の半数は TOEFL Junior 講座の受講生でした。

本校の所在地である大阪府高石市は万葉の時代から白砂青松の風光明媚な地として有名でありましたが、本校がこの地に創業の頃より、日本の経済発展のために沖合に人工島が作られ、泉北臨海工業地帯に一変し、石油コンビナートが形成された経緯があります。そのような地域性を活かして、本校 SGH プログラムのテーマを「エネルギーの観点から世界の改革を図る」といたしました。この課題を究めていく手法としてシナリオ・プランニング (SP) を採用し、高石市役所、滋賀県琵琶湖環境部、昭和シェル石油株式会社、京都大学、筑波大学、大阪大学、関西学院大学、立命館大学、産業技術総合研究所、宇宙航空研究開発機構の先生方にご指導を仰ぎ、新たな教育分野を拓こうと努力しております。関係者の方々にずいぶんお世話になりましたことに深甚の感謝の意を表する次第です。

第一回の中間報告会は、昨年 9 月 5 日の「文化芸術の日」の主要プログラムとして、生徒主体で研究発表・報告をさせて頂き、好評を博しました。ご覧いただいた方々からは「受験勉強だけでなく、こんな素晴らしい教育を行っているとは知らなかった」というコメントも頂きました。第二回の報告会は、この 2 月 27 日に中学 3 年生全員と保護者、他校の先生方等を対象に、司会進行も含めて文字通り生徒の手で運営されました。

この度、本校の SGH 活動を紹介する最初の報告書ができあがりました。研究内容も含めて不十分どころ、拙劣なところも多々あると思いますが、ぜひご一読の上、お気づきの点のご指摘を賜り、今後の糧とさせて頂ければ幸いです。

第 I 部 SGH 事業の 概要

1. 本校の SGH 構想
2. シナリオ・プランニング (SP) への道
3. 事業展開
4. 運営指導委員と連携先

1. 本校 SGH 事業について

①本校 SGH 構想の概要

- 「未来を読み解く力」と「世界に発信する力」を身につけるための教育システムの開発を目的とする。
- 生徒による「シナリオ・プランニング (SP)」を用いた未来予測を研究開発のテーマとし、学習教材としての体系化を図る。また、その研究成果を効果的に発表するための力、情報処理の力を身につける。
- 「シナリオ・プランニング (SP)」とは、ロイヤル・ダッチ・シェル社が用いた未来予測の手法で、複数の「起こりうる未来のシナリオ」を論理的に創り上げ、多様な未来の可能性を考えることで、より望ましい未来への道筋を模索しようという方法論である。
- そのためには、教科教育の枠を超えた知識や分析力が必要となるので、Political, Economic, Societal, Technological の 4 つのゼミ (PEST ゼミ) を開講して専門的な知識や考え方等を習得する。
- 国内外のフィールドワークを積極的に行い、国内外の高校・大学・企業・地方公共団体等と協働してシナリオ・プランニング (SP) を行うとともに、教材の普及とネットワークの構築を図る。



SGH ロゴ (生徒公募作品)

②「シナリオ・プランニング (SP)」について

「地球規模の視野を持って世界のあり得べき未来図を描き、社会をより良い方向に導いていく人材」と定義したグローバル・リーダー育成をめざし、ビジネス手法「シナリオ・プランニング (SP)」を学習教材として体系化する。

テーマとしては、「SP を用いて未来のエネギー事情を考える」とし、年に 2 回中間発表会を行い、高校 3 年次には市のホールを使用して研究発表を行う予定である。

各学年では、週 2 時間の総合的な学習の時間を用いて以下のような内容を実施する。

高校 1 年次：『PEST ゼミ (基礎)』『GE』『PIT』

高校 2 年次：『SP』『PEST ゼミ』『GE』

高校 3 年次：『SP』『GE』

注 『PEST ゼミ』：SP に必要な経済・政治・社会・科学技術等各分野の知識・分析力開発の講座

『GE』：グローバル・イングリッシュ講座

『PIT』：情報処理能力向上の授業

なお、外部の専門機関 (大学、企業、地方公共団体等) や高校と連携し、協働して SP の演習を行うとともに、国内外のフィールドワークも積極的に行う。

2. シナリオ・プランニング（SP）への道

PEST ゼミ・講演会・特別授業・GE・フィールドワーク・その他

1. 本校の課題研究テーマは「SP を用いて未来のエネルギー事情を考える」であり、研究開発の主軸はシナリオ・プランニング（「SP」）である。SP を行うことで、論理性・課題発見能力を高め、主体的に活躍できる人材を育成することを目指している。しかし、本来 SP は高度なビジネス手法であり、その手順は高校生には難解である。また SP を行うために必要な、未来に影響する因子を列挙するという作業のためには、広い視野と多角的な思考法を身につけねばならない。

2. 一年次は、次年度以降の SP 演習に耐えうるだけの生徒の素養を養うことを主たる目標として研究開発活動を行う。具体的には、課題研究の中核として「PEST ゼミ」の基礎講座を実施する。また、総合的な学習の時間内における「Global English (GE)」「Practical Information Technology (PIT)」や、国語科・英語科・情報科の教科学習においても、生徒の探究学習の素養を向上させるための取り組みを実施する。

また、学校・教員の取組としては、次年度以降の SP を円滑に行うために、教員研修等を行って、教材化を進めるとともに、新規連携先を開拓する。

3. 一年次のそれぞれの取り組みは、次のようなものである。

【PEST ゼミ】

Political、Economic、Societal、Technological のそれぞれのゼミを各 7～8 回ずつ実施し、生徒はそれぞれの考え方の基礎を学ぶとともに、次年度以降のゼミ専攻の参考とする。なお、それぞれのゼミにおいて専門家を招き、講義や演習の指導を受ける。

【GE】

通常の英語の授業と連携を取りながら、姉妹校との Skype 授業や、英語によるディスカッションやプレゼンテーション等を計 7～8 回行う。なお、20 名弱のクラスに対し、ネイティブを交えた教員 2 名によるチームティーチングで行う。

【PIT】

通常の情報の授業と連携を取りながら、より実践的なデータ処理に主体的に取り組む活動を、計 5 回を行い、情報処理技能を向上させる。

【海外フィールドワークの実施】

長期休暇を利用して、希望者を対象に、マレーシア・シンガポール、フィリピンへの研修旅行を行い、現地の大学・高校と協働して探究活動を行う。

【国内フィールドワークの実施】

長期休暇等を利用して、希望者を対象に、関東・関西方面への研修旅行を行い、企業・大学・高校等と協働して探究活動を行う。

【トビタテ！留学 JAPAN】

文部科学省の『トビタテ！留学 JAPAN』プログラムに積極的に参加するよう指導を行う。

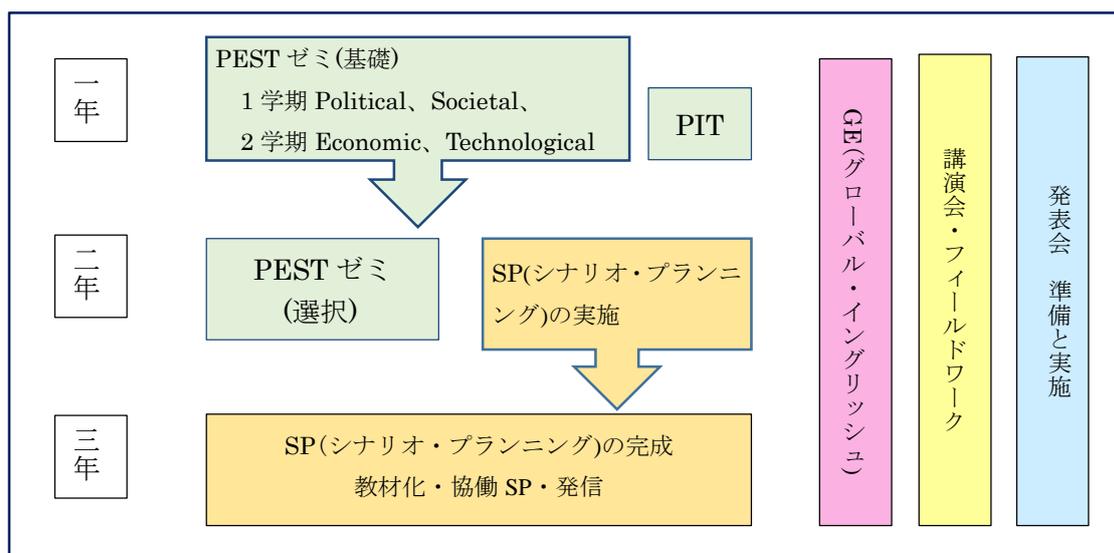
4. 事業展開

①来年度の予定

- 1 年次生 今年度の活動を踏襲
- 2 年次生 『SP』: シナリオ・プランニングの取り組みを開始
『PEST ゼミ』: 4 分野から生徒が 1 分野を選択して実施
『GE』: 2 年目の取り組み
『研修旅行』: タイ研修旅行 (修学旅行に相当)
『フィールドワーク』: 国内外での活動を予定 (連携先数の増加)

②今後の予定

- 1・2 年次生 今年度・来年度の活動を踏襲
- 3 年次生 『PEST ゼミ』『GE』『PIT』『フィールドワーク』などの取り組みを統合し、「生徒によるシナリ・オプランニング (SP) を用いた未来予測」を実施し、論文作成を行うとともに、学習教材としての体系化と普及・ネットワークの構築を図る。なお、外部のホールを使用して、研究発表会を開催する。



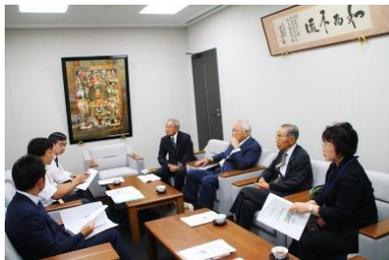
③今後の事業展開

1. シナリオ・プランニング (SP)
SP 実施、教材化と普及
国内外の提携先大学・高校・研究所・企業・地方公共団体等の開拓と連携・協業
2. 「SGH 国際シンポジウム」構想
春期フィールドワーク訪問先の高校生や大学生、近隣の SGH 校・アソシエイト校を招待し、国際シンポジウムを開催する予定。

5. 運営指導委員と連携先

①運営指導委員一覧（敬称略）

小谷 泰造	株式会社インターグループ取締役会長
佐野 慶子	高石市教育委員会委員長
中村 松市	株式会社パイン キャピタル（シンガポール）グループ代表
横山 直樹	富士通研究所フェロー



②連携先一覧

京都大学・大阪大学・筑波大学・関西学院大学・立命館大学
昭和シェル石油株式会社
大阪府高石市・滋賀県琵琶湖環境部
産業技術総合研究所（AIST）・宇宙航空研究開発機構（JAXA）
Brisbane Grammar School (Australia)
Universiti Teknologi Malaysia (Malaysia)
Colegio de San Juan de Letran (the Philippines)
St. Joseph's Institution (Singapore)

第Ⅱ部 一年次報告

1. オリエンテーション・G-Mission
2. 講演会・特別授業
3. Field Work（フィールドワーク）等
4. PEST ゼミ
5. Global English（グローバル・イングリッシュ）

1. オリエンテーション・G-Mission

4月当初、グローバルコース生に対するオリエンテーションをG-Missionという形で行いました。

【意義・ねらい】

- ・課題探求活動の雰囲気を感じ取る。
- ・グローバルコース生としての自覚を持たせる。
- ・ブレインストーミングの方法を意識付けする。
- ・パソコンの使用やネットワークを用いた課題の提出に慣れる。
- ・宿題とは異なる「Mission」への耐性を付ける。

『議論をする上でのルール五箇条』『講演を聞く上でのルール五箇条』を班毎に考えて発表せよ。」という課題でディスカッションを行った。

生徒達は新コースということで、どういった内容の授業が行われるのか不安を抱えており、それを払拭するのが一番の目的であった。

課題については出来るだけ根本的なものを、今後に役立つものを、と考えて設定した。

【授業の流れ】

		教員準備	生徒の動き
入学式	G-Mission1配布		生徒それぞれで五箇条を考え、メールで教員に送る
		班毎に各生徒の案を一覧表にする	
総合第1回	G-Mission2配布		一覧表にしたものから重複した内容を削る
		重複したものを削除した一覧表作成	
総合第2回	G-Mission3配布		ディスカッションして五箇条を作成する
		定まった五箇条を発表用にパワーポイントにまとめる	
総合第2回			班毎に発表を行い、投票を行う
		最多得票の五箇条案を教室に掲示	



【最多得票作品】

【講演拝聴の五箇条】

- 一、講演者の経歴などを調べるべし。
- 一、失礼のないようにすべし。
- 一、講演中メモをとり、質問すべし。
- 一、講演内容と意見をまとめるべし。
- 一、懐疑的な姿勢をもつべし。

【議論実施の五箇条】

- 一、礼儀を守るべし。
- 一、自分の意見を正確に持つべし。
- 一、簡潔かつ論理的に議論すべし。
- 一、一人一人の意見を尊重すべし。
- 一、視野を広げるべし。

【生徒の感想】

初めてのグローバルの授業でどんなことをするのかと少し緊張していましたが、先生の話が始まるともっとリラックスしていっぱい発言もしようと思いました。普段あまり喋ったことのない人との話し合いでしたが、積極的に参加できたと思います。

先生が、最後におっしゃった、「今、議論してたけど、自分たちが決めた『議論実施の五箇条』意識してた？」という言葉聞いて、はっ、としました。今決めたのに、全く意識してなかったなと思いました。そして、自分で、次はこれを意識しつつ議論をするためにはどうすべきか？それを考えてみたいと思いました。

【講評】

《良かった点》

- ・授業の雰囲気慣れ、課題探求活動を楽しむようになってくれた。
- ・議論の仕方や課題の提出など、学習を進める上での約束事を身につけてくれた。

《反省点》

「ねらい」は十分に果たせており、オリエンテーションとしては成功であったと思われる。強いて反省点を挙げるとするならば、グループウェア導入との時期的なズレもあり、メールで課題を提出させていたが、件名や送付者名等々の約束事において不備が多く、処理が煩雑になったことである。「情報教育との関連性を考える必要はあると思われる。

2. 講演会・特別授業

本校に講師の先生をお招きし、グローバルコース生全員を対象に、講演や特別授業（ワークショップ形式）を行っていただきました。

No.	日程	講師	内容
1	5/15(金)	関西学院大学 国際学部 吉村 祥子 教授	Political ①吉村先生より、平和や人権に関する講演を行っていただく。 ②グループに分かれ、各チームに与えられた事例が、「児童権利条約」のどの条項に抵触しているかを考える。その後、その問題を解決するための方策を考え、その方策を実行する際の課題とその課題の解決策も考える。 ③グループで話し合った内容について、発表を行う。
2	6/29(月)	関西学院大学 社会学部 村田 泰子 准教授	Societal ①我々は、自分、あるいは他人の行動を性別によって規定してしまう傾向にあることを講演していただく。 ②家族社会学・ジェンダー論の位置づけなどについて解説していただく。 ③講演の中で、生徒に意見を聞きながら「感情労働」等の問題について考察する機会を適宜設けていただく。
3	7/23(木)	IGS 株式会社代表取締役社長 福原 正大 氏	「グローバルリーダーとして持つべき力（安全保障について考える）」 ①ゲーム理論についての説明とペアワークショップ活動。 ②一国の首相として集団的自衛権や外交について考え、意見を発表。 ③海外大学に進学する学生から、勉強法などについての質疑応答。
4	9/29(火)	関西学院大学 イノベーション研究センター 土井 教之 名誉教授	「グローバル化と経済 ～エネルギー経済から～」 ①エネルギー経済のしくみ ②エネルギー経済の特徴 ③企業や産業の分析における視点 ④産業との連関
5	10/27(火)	京都大学 化学研究所 若宮 淳志 准教授	「化学の魅力」 ① 有機薄膜型太陽電池の開発の意義について ② 将来のエネルギー獲得の問題から見た化学の発展について ③ 研究者の立場から見た有機薄膜型太陽電池の開発の現場について

6	11/6(金)	滋賀県琵琶湖環境部 環境政策課 中村 達也 参事	「滋賀・琵琶湖を知る」 ①将来の SP につながる「政策立案」に不可欠な、その土地の地理的特徴・歴史を学ぶ ②環境先進県となった理由（石けん運動を中心に） ③「飲水思源」の考え方について
7	11/27(金)	立命館大学大学院 テクノロジー・マネジメント研究科 湊 宜明 准教授	「システムデザイン思考」 思考法のワークショップの続きとして、デザイン思考・システムデザインについてのお話を伺い、ワークショップも行った。ポイントは、「何を考えるべきかをまず考える」「システムの妥当性を見極める」ということであった。
8	1/15(金)	大阪大学 文学部 高橋 文治 教授	「中国研究の現在」 グローバル化の中で中国研究の果たす役割の重要性、その際、欧米の「知の体系」を理解している日本人の果たすべき役割についての講演であった。中国の「愛の物語」を素材に、欧米との対比を行いながらグローバルに文化の差をとらえる試みで、派手なプレゼンテーションを駆使した講演とは異なり、大学の授業のように文字(漢字)と音声の情報のみでしっかり考える必要があり、生徒には良い体験となったと思われる。



3. Field Work (フィールドワーク) 等

様々な所にフィールドワークに出掛けて色々な活動を積極的にこなすことで、前項の講演会・特別授業とも連動して、シナリオ・プランニングに向けての基礎作りを行いました。

No.	日程	場所	講師等	内容
1	7/11 (土)	立命館大学 いばらき キャンパス	立命館大学大学院 テクノロジー・マネジメント研究科 湊 宜明 准教授	「グローバルリーダーのための思考法ワークショップ」 ①マシュマロチャレンジ (パスタとテープ、ヒモだけでマシュマロの乗った塔を建てる) ②発散型思考法 (ブレインストーミング法) と収束型思考法 (親和図法) ③論理的プレゼンテーションとは (論理のピラミッド構造を作る)
2	7/14 (火)	関西学院大学 西宮上ヶ原 キャンパス	関西学院大学 社会学部 村田 泰子 准教授	Societal ①日本人海外留学経験者の話をもとに、ジェンダーという問題についての考察 ②中国人留学生から、中国での子育てや女性の労働環境についての説明 ③3つのグループに分かれて、中国人留学生に質問・意見交換後、議論内容の発表
3	7/14 (火)	関西学院大学 西宮上ヶ原 キャンパス	関西学院大学 国際学部 吉村 祥子 教授	Political ①本校生徒による、「国連弁当決議案」のプレゼンテーション ②そのプレゼンテーションに対し、吉村先生と大学生からのアドバイス ③吉村先生による、国連やその他に関する基礎的な知識についての講義
4	7/21 (火)	産業技術総合 研究所 関西センター	産業技術総合研究所 関西センター イノベーションコーディネーター 斎藤 俊幸 氏 研究員 堀内 哲也 氏	Technological ①施設内見学と設備や研究内容の解説 ②ブレインストーミング法を用いての柔軟な発想法のコツを伝授 (グループワーク) ③産業技術総合研究所と関西センターについての説明
5	11/4 (水)	本校コンピューター教室	姉妹校、豪州ブリズベン・グラマー・スクールの日本語コース選択生徒	Skype を用いた交流会 無料通話ソフト Skype を用いた交流会。同年代の外国の生徒と、英語と日本語を用いての交流。
6	3/21 (祝)	関西学院大学 西宮上ヶ原 キャンパス	春期筑波方面フィールドワーク参加者	近畿地区 SGH 課題研究発表会 ①プレゼン発表 “How We Have Acquired a Perspective through Virtual Trade” ②ポスター発表 「タブレット化についての考察」 「男らしさと女らしさについて」

3月 国内外のフィールドワーク

No.	行先	日程	内容
1	国内（関東）		新大阪発→筑波大学 大学院生による講演およびワークショップ活動
		3/16 (水)	産業技術総合研究所(AIST)つくば 2つの研究室によるワークショップ活動と施設見学
		～	宇宙航空研究開発機構(JAXA)つくば 観測衛星からの資料を用いての環境予測や国際協力についてのレクチャーおよびワークショップ活動
		3/19 (土)	筑波大学 Leslie Tkach-Kawasaki 准教授による講演 大学生・大学院生と協働でのワークショップ活動
			東京発→新大阪着
2	マレーシア (ジョホールバル) シンガポール		関西国際空港発→チャンギ国際空港着 マレーシア（ジョホールバル）へ陸路にて移動
		3/17 (木)	マレーシア工科大学 大学生・大学院生と協働でのワークショップ活動 テーマ別のプレゼン・グループ別ディスカッション イスカンダル計画視察
		～	マレーシア工科大学 レクチャー、ディスカッションのまとめとプレゼン マレーの村体験
		3/22 (火)	シンガポールへ陸路にて移動 企業訪問・レクチャー（シンガポールの歴史と発展）・見学等 現地大学生とグループ別のフィールドワーク
			NEWater(水再生処理施設)見学 St. Joseph's Institution（シンガポール） 高校生と協働でのワークショップ活動 テーマ別のプレゼンテーション、グループ別ディスカッション 現地法人訪問・見学等
3	フィリピン (マニラ)	3/17 (木)	関西国際空港発→マニラ国際空港着 Colegio de San Juan de Letran 高校生と協働でのワークショップ活動、 キャンパスツアー、レクチャー聴講 グループ別ディスカッション（テーマごとにグループは変わる） ディスカッションの内容についてのプレゼンテーション
		～	Letran の学生とグループ別フィールドワーク（マニラ市内）
		3/22 (火)	現地大学の日本人講師による講演・ワークショップ活動 各企業や施設の訪問・講演・見学等 スモーカーマウンテン見学

4. PEST ゼミ

前期は Political（政治学的分野）と Societal（社会学的分野）を、後期は Economic（経済的分野）と Technological（科学技術的分野）を行いました。

1) PEST ゼミ Political（政治学的分野）

【意義・ねらい】

- ・プレゼンテーション能力や表現力、交渉力を高める。
- ・自国や他国への関心を高める。
- ・課題発見、問題解決能力を養う。
- ・法令等の読解による専門知識を身に付ける。

「模擬国連」では自らの担当する国の課題を探り出し、解決のための決議案を考える。そしてそれが決議となるよう、他の国から理解が得られるよう説明し、折衝する。この取り組みを通して生徒たちは、政治とは「最大多数の最大幸福」を実現するものであると実感し、自国だけの利益にとらわれてはいけないということに気づくはずである。この自己にとらわれず多様性を認める姿勢こそ、生徒たちが政治を学ぶことを通じて身につけるべきものである。

「模擬国連」参加に向けた導入として、高校1年生の授業では、「国連弁当」を教材にした。「国連弁当」とは、もちろん架空のものであるが、国連会議の場において世界中の参加国が会議の合間に同じ弁当を食べるとすると、どのようなものがふさわしいかを考えるというものである。生徒たちは4～5名ずつのグループに分かれ、担当国を決定し、政治・宗教・文化などに配慮しながら、それぞれの国が提案する決議案を作成した。

【授業の流れ】

1回目	授業ガイダンス、模擬国連の紹介
2回目	担当国決定
3回目	「国連弁当に関する決議案」作成
4回目	「国連弁当に関する決議案」作成、発表の準備
5回目	各グループの決議案発表
6回目	他国の決議案の改善点を考え、交渉する
7回目	決議案を完成させる

【生徒の感想】

今日は P の最後のゼミがありました。今回は各班から厳しく指摘をうけた決議案の改正をしました。改めて自分たちの決議案を見ると「こうすればよかったなあ」とか「こういうふうに言えばよかったなあ」とか後悔と反省は山ほどあるのですが、まずは期末テストをのりきって、改正案をじっくり考えたいなあとと思います。

他の班からの改善案を受け取り、最終的な案の作成に取り掛かりました。他の班からの客観的な意見はとても参考になりました。そしてどんな場面においても客観的な視点が重要だと思いました。

今回は前回の続きで他班と欠点や質問点を書いた紙を交換しました。また残りの時間で決議案の修正をしました。一学期をかけて作ってきた物をやっと完成させることになります。色々欠点もあったのでちゃんと班員で集まり、訂正案を練りたいと思います。テスト後の提出日までにもっといい物に仕上げられたらいいなと思います。

【講評】

《良かった点》

- ・どの生徒も終始、意欲的・積極的に取り組んでいた。
- ・パワーポイントなどを使用し、プレゼンテーションを行うことに慣れてきた。
- ・他の教科やクラスの決め事の際にも、活発な議論が行えるようになってきた。

《反省点》

- ・決議案作成にはかなりの時間を要し、授業以外の時間の負担が重かったように思う。
- ・「調べる」ということに不慣れな生徒が多く、日本国内の一部のホームページで調べて満足している者が多かった。
- ・まとめや発表の時期が定期考査と重なり、生徒たちにとっては負担をかけるものになった。
- ・生徒たちが校内でパソコンを用い、相談できるような活動場所が十分に確保できていなかった。



2) PESTゼミ Societal (社会学的分野)

【意義・ねらい】

- ・ディスカッション、プレゼンテーションに慣れる。
- ・エクセルを用いた情報処理を行う。
- ・論理的思考力を養う。
- ・失敗をする。

社会学のゼミということで、社会が人間をいかに規定しているか、つまり、人間が無意識のうちにとれほど社会から影響を与えられているか、を考えさせることを意図した。

日々目にする機会の多いアンケート調査であるが、それを作成するためには様々な角度からの論理的思考が必要である。自分達が立証すべき仮説を立て、それを証明するための論理展開を考え、そのための論拠をアンケート結果に求めることが出来るように、各アンケート項目を設定していかねばならない。演習を通じて、アンケート調査というものの自体が有意図的なものであるということを体感させ、社会は様々な思惑に満ちていることも考えさせたかった。

なお、当初は具体的な内容（「A型はまじめだ」という説が人に与える影響は？」等）を与える予定であったが、生徒から「自分たちで設定してみたい」という要望が出たこともあり、任せることにした。

【授業の流れ】

1回目	社会学についての説明
2回目	命題・仮説の設定 課題：「当たり前だと思われている命題がどう人に影響を与えているか」
3回目	ディスカッションを通して、アンケート項目の作成
4回目	
5回目	アンケート結果の入力・分析 → 仮説の検証
6回目	
7回目	発表

【生徒の感想】

Sは内容がとても難しく、今まで毎回苦戦してきました。発表の準備もテスト前ということもあり時間があまり取れず、十分にやってきたことを発揮できなかったのが悔しかったです。また他の班の発表を見て、プレゼンの仕方も勉強できたので、これからは生かしていきたいと思いました。

私達の班は外見が内面にどう影響を与えるかという話について考えてきました。結果だけ言えば、正直失敗だなと思います。アンケートの内容はもっと練ることが出来たと思うし、仮説と結びつけるのは難しいだろうと判断して使わなかったアンケートの集計結果もたくさんありました。時間が足りなかったというのがありますが、もう少し上手く話を持っていくことが出来たんじゃないかなと思います。仮説が正しいか正しくないかを検証するというもとの目的からも少し逸れてしまっていました。次回以降は目的をしっかり認識して、もっと力を尽くしたいと思います。

今回は 1 学期の最後の授業で班で考えた事を発表しました。発表内容にはある程度満足できましたが、面白さと時間短縮が大きな課題だと痛感しました。またツッコミを入れられるところがあったと思うので、そのへんも詰めていきたいです。班の皆と一緒に一生懸命アンケート実施、考察をして得た物は自分にとってよいものになりました。楽しかったです。

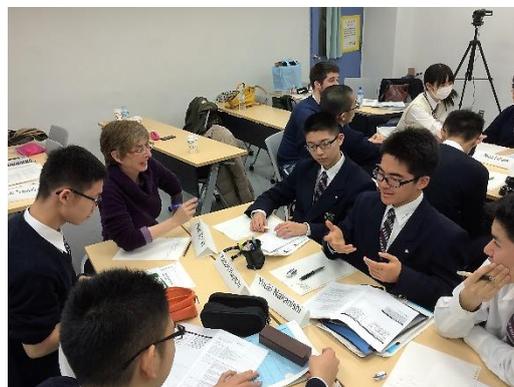
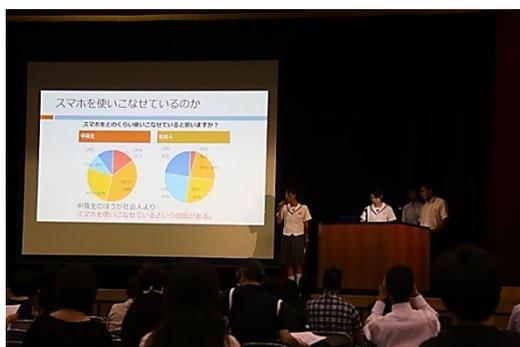
【講評】

《良かった点》

- ・生徒の取り組む姿勢は素晴らしかった。
- ・パワーポイントの使用など、教えていない技術もどんどん活用するようになった。
- ・満足できる発表を出来る班が無かったという意味では、しっかりと失敗経験を積むことが出来た。

《反省点》

- ・議論、分析、検証、全ての段階において時間が不足していた。
- ・論理的な思考を固めきれないままにアンケート実施に踏み切ったため、各発表についても論理的なものとはならなかった。パワーポイントを用いての小手先のプレゼンテーション技術に頼ることとなってしまったのは、残念である。



3) PEST ゼミ Economic (経済的分野)

【意義・ねらい】

- ・ 企業研究を通してエネルギーに関わる企業を中心に企業活動や技術を知る。
- ・ 投資行動から経済・市場の動向を知る。

実際に企業が行っている活動や技術革新の分析を通して、基礎知識を身につけさせ、さまざまな地球的・地域的課題を解決するための発展的な議論が出来る素地を育成することを目標とした。

しかし、高校生は非常に情報の少ない、限られた生活をしている。そのような中で経済の知識は公民の教科書で学習するようなごく基本的なもので、実際に議論ができるほどのものはない。情報を与えるのではなく、自ら情報を求めさせる方法として、日経ストックリーグ(ヴァーチャル投資)の手法を活用することにした。企業への投資行動によって、企業がどのような活動を行っているか、どのような技術をもっているか、どのような社会的貢献を行っているかといったミクロな視点を養うことが期待できる。また、株価の変動は内外の経済、政治など様々な影響をうけ、マクロな視点を養うことができる。ただ、授業時間数の関係上、株価への影響分析については、必須項目とはしなかった。

【授業の流れ】

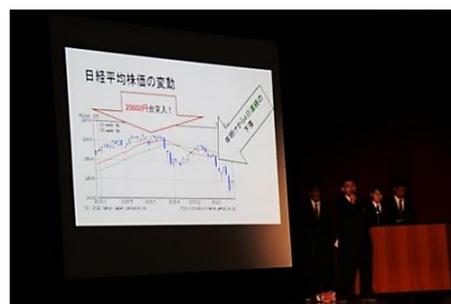
1回目	テーマを決めよう
2回目	テーマに沿った企業や技術を調べよう
3回目	スクリーニング1 業務内容で企業を選別しよう
4回目	スクリーニング2 様々な指標で企業を選別・資金配分しよう
5回目	レポートの作成準備
6回目	プレゼンテーションの準備
7回目	プレゼンテーション
8回目	プレゼンテーションの質疑に対する回答の作成とレポートの修正

今回の授業では最終的にテーマに関するプレゼンテーションとレポートの作成を行うこととした。プレゼンテーションだけではなく、レポートを課した理由は、テーマについて論理的に考えられているか、資料などを吟味しているかなど短時間の発表だけでは分からない部分を見るためである。また、来年以降、本格的に日経ストックリーグに参加する場合、ストックリーグの評価がレポートであるため、その予行演習も兼ねている。そのため、発表・レポートともに日経ストックリーグに準じて、テーマに関する現状分析、ポートフォリオの作成、企業の紹介という流れとした。

テーマ設定ではブレインストーミングを用いた。太陽光や環境関連など一般的なエネルギーの範疇にこだわらず、柔軟に発想させることにし、幅広いテーマにつなげられるように心がけた。そのため、エネルギーから離れたテーマを選んだチームもでた。

研究テーマに関係する企業は主にインターネットと四季報などを使い調べることにした。ポートフォリオの作成では株式投資の代表的な指標のほか、チームで考えた指標などを加えさせ、その指標の意味について考えさせるようにした。授業ではなるべく説明の時間を短縮し、活動時間を増やすことを心がけた。事前プリントを作成し、授業での説明をパワーポイントで要点だけを示した。

プレゼンテーションの授業では、質疑応答や各チームの採点の時間を設けることができなかったため、グループウェアを活用した。各チームの採点はループリック評価表に従って各生徒が行い、最後の時間では質疑に対する回答を考え、レポートやプレゼンテーションの改訂作業を行った。



【生徒の感想】

- 班に分かれてブレインストーミング法でエネルギーから発展させてアイデアを出しました。私たちの班のアイデアでは食品、観光業、文房具といったようなグループが最終的にできていました。初めの方は皆、あまりアイデアが出てこなくてつまっていたのですが、後半になると次々にアイデアが浮かび、わいわいと楽しかったです。次のゼミでは更に色々な視点から考えるようにしたいと思います。
- 各班 5分という時間内に収めるのに苦労していました。十分時間があつたら全く違う出来栄になっていたかも知れません。今回の発表を通して、時間の無駄をなくして、かつ伝えたいことをなるべく多く伝えるということの難しさを学びました。また、経済の動きにこれだけ注目したことは、自分も含めて、ほとんどの人にとって初めてのことだったとおもいます。経済の知識を身につける良い機会だったと思います。

【講評】

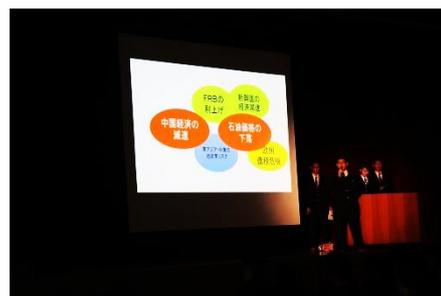
ねらいとしてあげた「企業活動や技術を知る」という点では、不十分ながら達成できたと思う。いままでは、企業のホームページを見たり、ましてや CSR（企業の社会的責任）について調べる機会はなかったと思うが、それらに積極的にアクセスし情報を得て、新たな知識を得ることにつながったと思える。

テーマを決定する時には、湊准教授(立命館大学大学院)から教わったブレインストーミングを実践し、1回目・2回目の授業がスムーズに進められた。また、プレゼンテーションでは 50 分で 7 班の発表を行うため、1 班 5 分の発表時間となった。各班調べた分量に対して、発表時間が短く苦労していた。しかし、プレゼンの中には非常に魅力的で工夫の見られたものも多く、いかにポイントを絞って発表するか、また、その練習がどれだけ必要かということが分かったと思う。

今回の実践では様々な場面でグループウェアを活用した。紙媒体で配布した資料の PDF 化してのアップロード、生徒への連絡、プレゼンテーションの採点、質疑の入力などである。

《課題》

- ① 前述の理由で、テーマ設定が「エネルギー」から大きく外れたものが散見された。当初の考えでは、より幅広い分野の企業を知ってほしいということで、「エネルギー」から遠くなくてもよいとした。
- ② 生徒に「課題発見意識」が乏しいということも課題である。調べた企業活動や技術がどのような未来を築くのか、どのような社会的な問題の解決につながるのかといったことまで考察できていなかった。「企業のことを調べておわった」という印象を持たれてしまう内容のものもあり、課題発見学習、課題解決学習に必ずしもつながらなかったのは反省すべき点である。
今後はテーマ設定を明確に課題解決型のテーマに絞り、そのような取り組みをしている企業を調べるのがよいのではないかと考えた。
- ③ プレゼンテーションおよびレポートの評価はルーブリックを利用したが、その活用が十分ではなかった。ルーブリックを早く提供して生徒の目的意識やレポートの方向性を示唆すべきだった。また、ルーブリックの内容についても今後検討を加える必要があると感じている。
- ④ ポートフォリオの運用実績と株式市場の変動の要因から経済の仕組みを研究させようと試みたが、時間的余裕がなく、チームのチャレンジ項目として、一部のチームのみの取り組みとなってしまった。
- ⑤ 授業時間数の関係上、事前プリントの配布やグループウェアの活用などを行ったが、ICT インフラが未整備のため、グループウェアへのアクセスがタイムリーにできなかった。毎授業の感想をグループウェアに書き込むことにしたが、必ずしも十分に活用できたとはいえなかった。



4) PEST ゼミ Technological (科学技術的分野)

【意義・ねらい】

- ・科学的な視点を養い、分析力や懐疑論的思考力を高める。
- ・プレゼンテーション能力や表現力を高める。
- ・ルーブリック評価について理解する。
- ・書籍の要約に慣れる。
- ・図書館での高度な書籍検索の方法を身に付ける。

科学的な視座の基礎を身につけるために、科学技術の進展の妨げともなり得る「疑似科学」についての研究を行った。「疑似科学」といっても、そう判断できる根拠を説明することは難しい。5～6名のグループ毎で、身近なニュースや話題から探し出し討論、発表を行った。

授業の前半では「疑似科学入門」(池内了 著, 岩波新書)を課題図書とし、グループ毎で要約を担当する領域を指定し、「手書き」に限定した資料の配布による発表会を行った。ここでは、池内氏が述べている「疑似科学」の定義と分類方法について共通理解を図ることを目的とした。

後半は前半での要約内容を踏まえ、各グループが「疑似科学」となる事象を探し、その根拠について検討し、プレゼン形式による発表を行った。また、インターネット等による検索調査では、科学的根拠を探る部分での議論が十分に深められない可能性もあり得ることから、プレゼン発表に必要な調査は原則として図書館で行うこととし、図書館司書による高度な書籍検索の方法の指導も合わせて実施した。さらに、プレゼン発表の評価は、担当教員が作成した以下に示すルーブリックによるものとし、生徒がこれに従って採点し集計を行った。

プレゼン発表に関するルーブリック

観点 \ 点数	1	2	3	4	5
時間(5分)	±91秒以上	±61秒～90秒	±31秒～60秒	±11秒～30秒	±10秒以内
説明原稿	すべて朗読	ほとんど朗読	チラ見6～10回	チラ見1～5回	1度も見ず
話題の完結	支離滅裂	何か違和感	逆 の解釈可能	別 の解釈可能	完全納得

【授業の流れ】

1回目	授業ガイダンス ～「科学」と「疑似科学」について～
2回目	「疑似科学入門」の要約
3回目	「疑似科学入門」の要約発表会
4回目	疑似科学のテーマを決定
5回目	疑似科学のテーマに関する議論
6回目	プレゼン準備
7回目	プレゼン発表会
8回目	発表に対する質疑への回答を検討

【生徒の感想】

technological は私にとってはすごくやりづらく、大変でした。班のみんなと話し合う時間があまりなくて、二人だけでやったりしていました。もっとちゃんと計画してやったら良かったなどと反省しています。この経験を生かして、来年も頑張っていきたいと思います。

世の中には本当に多くの疑似科学がはびこっているのだなと思いました。疑似科学をやる時最初は何のためにやっているのかわかりませんでした。しかし今は少し分かってきたような気がします。

自分たちは自信をもって発表していても、周りの別の視点を持った人からすると沢山質問が生まれるものだと気付かされました。また、質問の内容も強烈なものがあり、自分たちの調べ込みの甘さが分かりました。反省して次につなげようと思います。

【講評】

《良かった点》

- ・「疑似科学」に関する調査を通して、身近な話題について科学的な視点で考察できるようになった。
- ・書籍の要約や図書館での調査活動を通じて、書籍から多角的な情報を得られることを理解できた。
- ・ループリック評価を通して、客観的な評価結果が得られた。

《反省点》

- ・テーマによっては現象が複雑すぎて、科学的視点からの考察が困難なものも見られた。
- ・ループリック評価に関して、生徒に評価基準を決めさせてもよかった。
- ・インターネットによる検索を制限しすぎた。



5. Global English (グローバル・イングリッシュ)

前期

【意義・ねらい】

- ・ 英語によるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。
- ・ 正確で、分かり易い英文を書く力を身に付ける。
- ・ 日本文化に対する理解を深める。

【授業の概要】

- ・ 1学期の授業回数は3回。
- ・ 1クラス(40名)を20名ずつのグループに分けて授業を行う。
- ・ 20名のグループに対し、日本人教員1名と外国人教員1名が指導にあたる。
- ・ 授業はすべて英語で行い、生徒同士も原則として英語で会話を行う。

【授業の流れ】

授業外活動	各生徒が紹介文を作成し、提出。
1時間目	5グループに分かれ、各グループで20の紹介文から3つのベスト紹介文を選出する。 その後、選んだ紹介文をその理由とともに発表する。
2時間目	各グループにより選ばれた紹介文(約10編)から、さらに5つに絞る。 その後、各グループの担当を決定する。
授業外活動	担当した紹介文をさらに分かり易く改善し、完成した紹介文を暗記する。
3時間目	1クラス(40名)が集まり、各グループ代表が紹介文の発表を行う。

【生徒の感想】

- ・ 初めてのGEの授業でしたが英語のみで会話したり、限られた時間で自分たちの意見をまとめたりするなど、結構大変だった。また今回、人の意見を聞いてばかりだったので、次はもっと積極的に自分の意見をアピールしていきたい。
- ・ 今回も思ったのは、やはり英語で議論するということはとても難しいということだ。まず言われている内容を理解しなければどうしようもない。自分の班または自分自身だけでなく、他人にまで迷惑をかけてしまう。分からない場合は流さず、毎回質問しようと思う。また、前回の反省から、次は失敗を恐れず発言していくという目標を立て実践してみると、先生に言いたいことが通じた上、どう表現したらいいかということが分かった。
- ・ 今日各クラスで作ってきた日本文化の紹介文の発表でした。ランダムで班員の人々が当てられて前に立ち、発表をしました。中には自分からやりたいと先生に言って発表している人もいました。私はそこまで出来るような自信も勇気もありませんでした。自分から前に立てる人は素直に尊敬できると思います。先生が言っていた通りに今後練習・経験をたくさんして、自分から動ける人間になりたいと思います。

【講評】

(良かった点)

- ・ 生徒が自分たちの英語力不足を痛感できた。
- ・ 意思疎通をするのに、完璧な英語を話す必要はないということが理解できた。
- ・ 発表をする際、聞き手を中心に考えて行うことが重要であると認識できた。
- ・ 日本文化についての知識を深めることができた。

(反省点)

- ・ 授業時間数が少なかったこともあり、授業外での活動が多く、生徒にとって負担が大きかった。
- ・ 最後の授業時に、暗記をきちんとできていない発表が多かったのは残念であった。

(但し、暗記のために与えた期間が短かったのは我々教員の反省点である。)

【活動】

国際的な関心が高い、日本の持つ問題について英語による Debate（ディベート）を行う。

【意義・ねらい】

- ・ 英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。
- ・ 正確で分かり易い英文を書く力を身に付ける。
- ・ 論理的な思考力を養成する。・ 1つの問題に対しても多面的に考えることの大切さを理解する。
- ・ 時事問題に対する関心を深める。

【授業の概要】

- ・ 2, 3学期の授業回数は5回。
- ・ 1クラス（40名）を20名ずつのグループに分けて授業を行う。
- ・ 20名のグループに対し、日本人教員1名と外国人教員1名が指導にあたる。
- ・ 授業はすべて英語で行い、生徒同士も原則として英語で会話を行う。

【授業の流れ】

1時間目	ディベートの趣旨とルールを把握。（プリントを配布し、ビデオを見る。） グループ全体のトピックの選択と決定。
2時間目	6チームに分かれる。（1チームにつき3～4名） チーム内での役割分担決定。 論点を明確にし、立論を作成。 （賛成・反対のどちら側でも対応できるよう準備。）
3時間目	論点をさらに深める。予想される質問、反駁などに対してどう対応するかを考える。
4時間目	2チームによる模擬ディベートを通して、流れを確認。論点等の最終確認。
5時間目	2チームずつ、対戦型でディベートを行う。

【生徒の感想】

- ・ 英語で自分の意見を伝えるのは難しかったです。伝わったときは嬉しかったです。
- ・ 日本語でも難しそうなのに、英語でやるなんてどんなに難しいんだろうと思いました。
- ・ インターネットを使って情報を収集しましたが、英語で検索して有用なサイトを見つけるのは難しく、また内容を理解するのがとても難しかったです。
- ・ 準備不足で作業が上手く進まなかった。準備が大切だと改めて思い知りました。
- ・ 語彙力とかがなくて表現するのが難しかったり、色々と苦労しました。
- ・ 重要な部分だけを抜粋して自分なりに情報をまとめることが大切だと思いました。

【講評】

（良かった点）

- ・ 英語での意思疎通が少しはできるようになり、情報収集の中で語彙力がアップした。
- ・ 論理的な文章を作成することの難しさを実感できた。
- ・ ある一つの問題に対しても、様々な意見や考え方があることを認識した。
- ・ 国際的に関心の高い、日本に関する問題についての知見を深めることができた。

（反省点）

- ・ もう少し早くからトピックを提示し、必要な情報や知識を事前に収集させておくべきであった。
- ・ 英語で情報を得ることが非常に難しく、授業内での活動の多くが調べ学習になっていたのもう少し話し合いをする時間を確保すべきであった。
- ・ 当初の予定では生徒たちにもジャッジをさせる予定だったが、英語を聞きながらジャッジすることが予想以上に難しく、結局は判定ができなかった。

第Ⅲ部 成果・評価・展望

1. 成果

2. 評価

3. 展望

1. 成果

1. 高校1年次におけるシナリオ・プランニング（SP）の基礎

①『PEST ゼミ（基礎）』

SPに必要な政治・経済・社会・科学技術の各分野について、網羅的にかつ、基礎的な知識の習得と分析力の開発を目的とした。

教員も生徒も苦労しつつ、P, E, S, Tそれぞれについてそれなりの形を作ることが出来た。

試行錯誤を経て、2年目に修正を加えつつも「教材化」する基礎ができた。

②『GE』

英語による発表や討論など、SGH事業の各場面で英語を活用できる力を付けることが目的である。

また、日本文化に対する知識を深め、世界から注目されている日本の持つ諸問題について情報を収集させるとともに、問題に対する考察力を養うことも目的とした。

中間発表会において、英語による授業内容の発表や司会進行、ディベート活動などを行った。

まだまだ十分とは言えないながらも、英語で相談をしたり、ディスカッションをしたり、あるいは発表を行うことに多少慣れてきたようである。

③『PIT』

情報処理能力向上を目的とする。

生徒個々の努力に依存する部分が多く、十分に時間を取った指導は難しかったが、コンピューターを用いた情報処理技術の習得はある程度なされたと言えるであろう。

2. 講演会・特別授業

講演会・特別授業は、その時期における生徒の状況を鑑み、効果的な知識・技能・考え方の習得に資することが多かった。

今後の課題は、それぞれの講演会や特別授業をいかに関連付け、より効果の高い活動の構築を図ることである。

3. フィールドワーク（通常期間）

上記2と同様に、外的刺激が生徒の積極性の発露により影響を与えた。特に、一線級の研究者から直接お話を聞いたり、施設・設備や最新の研究に触れたり、あるいは、色々な国の大学生・大学院生との交流を持つことが効果的であった。

4. 春期国内外フィールドワーク

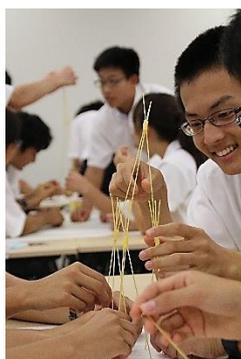
海外の高校生や大学生との討論・意見交換を通じて、今の自分たち足りないものを強く認識した。

1年目の生徒として試行錯誤しながら、今後継続して交流していく基盤作りができた。

特に海外コースに参加した生徒は、英語力向上の必要性を痛感したようである。

平成 27 年度（指定 1 年次）の実績

月	日	曜日	講演会 特別授業	フィールド ワーク	PEST・総合的な学習の時間					内容	
					P	E	S	T	GE		他
4										G-Mission	3 回
5	15	金	○								P
6	29	月	○								S
7	11	土		○							
7	14	火		○							
7	21	火		○							
7	23	木	○								グローバルリーダー論
9	5	土	第 1 回中間発表会								本校 SGH 事業について 生徒プレゼン
9	29	火	○								エネルギー経済
10	27	火	○								化学
11	6	金	○								琵琶湖
11	4	水								Skype	
11	27	金	○								システムデザイン思考
1	15	金	○								中国研究
2	27	土	第 2 回中間発表会								生徒プレゼン ポスター発表
3	16-19			○							筑波大学 産業技術総合研究所 JAXA つくば
3	21	月		○							近畿地区 SGH 課題研究発表会
3	17-22			○							マレーシア工科大学 St. Joseph's Institution (シンガポール)
3	17-22			○							Colegio de San Juan de Letran (フィリピン)



2. 評価

1. アンケートの結果

SGH 指定による効果の数的に顕著なものは、一部項目にのみに現れてる。

2. 自己評価

①『PEST ゼミ（基礎）』

PEST ゼミ「教材化」の基礎ができたことは評価できる。

次年度のシナリオ・プランニング（SP）につながる基礎として十分な内容となっているかは、今後検証が必要となる。

②『GE』

効果的な『GE』に向けて、工夫の余地がある。

『PEST ゼミ』との関連等も含めて、活動内容を改善する必要がある。

③『PIT』

実際には、プレゼンソフト・インターネットの活用・Skype 等必要に応じて習得していく形態が効果的であり、生徒の自己習得を促す工夫が効果的であった。

④講演会・特別授業、フィールド・ワーク（通常期間）

効果的な運用ができた。

本校の SGH 活動の体系の中にどう組み込んでいくかが、今後求められる。

⑤春期国内外フィールド・ワーク

個々の生徒が、将来国際的に活動する際に身に付けるべき事柄を意識し、次の学習や活動につながるものとなった。

3. 運営指導委員会の指導助言と評価

①第2回目の発表会では、第1回目と比較してはるかに成長した姿を見ることができ、今後は楽しみである。

③今後は高校時代に異文化の中で生活する機会(海外留学など)をできるだけ多く提供できるように、学校として体制を整えていくべきであろう。



スーパー グローバル ハイスクール 目標設定シートより

上段	SGH 対象生徒
下段	SGH 対象生徒以外

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

		／年度							目標値
		25	26	27	28	29	30	31	
a	自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数(人)	—	—	9					160
		52	48	80					80
b	自主的に留学又は海外研修に行く生徒数(人)	—	—	9					120
		19	17	30					40
c	将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合(%)	—	—	72					100
			48	50					20
d	公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数(人)	—	—	2					40
		7	5	21					10
e	卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合(%)	—	—	15					100
		6	6	8					20
f	将来起業したいと思っている生徒数(人)	—	—	6					40
			29	40					20

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

		／年度							目標値
		25	26	27	28	29	30	31	
a	国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合(%)	—	—						60
		24	26						40
b	海外大学へ進学する生徒の人数(人)	—	—						10
		0	0						5
c	SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合(%)	—	—						80
d	大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数(人)	—	—						80
									50

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）

		／年度							目標値
		25	26	27	28	29	30	31	
a	課題研究に関する国外の研修参加者数(人)	2	2	45					80
b	課題研究に関する国内の研修参加者数(人)	19	19	78					160
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数	0	0	5					10
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数（人数×回数）	0	0	22					150
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数（人数×回数）	0	0	11					50
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数(人)	6	9	0					60
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数（留学生も含む。）	8	3	3					30
h	先進校としての研究発表回数	0	0	3					10
i	外国語によるホームページの整備状況	×	×	×					○
j	産官学グローバルネットワークの構築	0	0	0					50

3. 展望

1. シナリオ・プランニング (SP) の実施

1年次のPEST基礎の成果を受け、また春期国内外フィールド・ワークの経験を踏まえ、SPを実施する。

ここでは、SPの手法を会得することを2年次当初の目標とする。

それと同時に、PESTゼミにより高度な内容について考える力を付け、後半の具体的なSPの実施につなげる。

生徒の各グループがテーマを定めてSPを実施し、その完成と成果の発表を目指す。

2. 「SGH 国際シンポジウム」構想

海外フィールドワークでつながりのできた学校やその他の機関を招待し、協働してディスカッションやプレゼンテーションを行う。

国内からもSGH校等を招待し、活動の輪を広げるきっかけとしたい。

3. その他

次年度の海外フィールド・ワークにおいては協働SPの実施を目指して、その準備も行う。

SPの発信方法・教材化・協働SPの方法等、教員による研究が必要となる。

日本や世界の様々な組織（学校・自治体・企業等）とのSPの共同研究などを行い、その成果の発表発信と教材化をめざして、準備を進めるとともに、産官学各組織同士のグローバル・ネットワーク作りの手助けを行いたい。



本校 SGH 構想 3 年間の流れ

《1 年生》

第一 年次	月	PEST		その他	
	4	P 基礎 S 基礎	情報 GE	講演会 特別授業 フィールドワーク	
	5				
	6				
	7	中間発表準備			
	8	中間発表準備			
	9	第 1 回中間発表会			
	10	E 基礎 T 基礎	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク	
	11				
	12				
	1	中間発表準備			
	2	中間発表準備			
	3	第 2 回中間発表会			



《2 年生》

第二 年次	月	PEST		その他	
	4	P 基礎 S 基礎	情報 GE	講演会 特別授業 フィールドワーク	
	5				
	6				
	7	国際シンポジウム準備			
	8	国際シンポジウム準備			
	9	国際シンポジウム			
	10	E 基礎 T 基礎	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク	
	11				
	12				
	1	中間発表準備			
	2	中間発表準備			
	3	中間発表会			

PEST		その他
PESTゼミ SP	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク
国際シンポジウム準備		
国際シンポジウム		
PESTゼミ SP	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク
中間発表準備		
中間発表会		

《3 年生》

第三 年次	月	PEST		その他	
	4	P 基礎 S 基礎	情報 GE	講演会 特別授業 フィールドワーク	
	5				
	6				
	7	国際シンポジウム準備			
	8	国際シンポジウム準備			
	9	国際シンポジウム			
	10	E 基礎 T 基礎	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク	
	11				
	12				
	1	中間発表準備			
	2	中間発表準備			
	3	中間発表会			

PEST		その他
PESTゼミ SP	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク
国際シンポジウム準備		
国際シンポジウム		
PESTゼミ SP	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク
中間発表準備		
中間発表会		

SP		その他
SP	GE	講演会 特別授業 フィールドワーク
課題研究発表準備		
課題研究発表		
論文作成・発表		

第Ⅳ部 資料編

1. 構想調書の概要・概念図
2. 講演会・特別授業
3. Field Work（フィールドワーク）等
4. PEST ゼミ
5. Global English（グローバル・イングリッシュ）
6. ポスター発表
7. その他

1. 構想調書の概要・概念図

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	せいふうなんかいこうとうがっこう				②所在都道府県	大阪府
27～31	①学校名	清風南海高等学校					
③対象 学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
普通科	1年	2年	3年	4年	計	中学校 816人 (1年:295 2年:269 3年:252)	
	313	331	384		1028	高等学校(普通科) 1028人	
⑥研究開発 構想名	「エネルギーの観点から世界の改革を図る —未来を創造する産官学グローバルネットワーク構想—」						
⑦研究開発 の概要	新規にグローバルコースを設置し、以下の取り組みを行う。 I、「シナリオ・プランニング」を用いた未来予測を、国内外の産官学と協働して行う。 II、Iに必要な専門的視座を得るため、「PESTゼミ」を開講する。 III、Iの協働演習を円滑に進め、効果的に発表するために「GE」を実施する。						
⑧ 研究開発の内容等	⑧ -1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>【目的】 グローバル・リーダーを「地球規模の視野を持って世界のあり得べき未来図を描き、社会をより良い方向に導いていく人材」と定義し、その育成のために、「未来を読み解く力」と、「世界に発信する力」を身につけるための教育システムを開発する。</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス手法「シナリオ・プランニング(以下SP)」を学習教材として体系化する。 ・国内外の産官学と、SPの協働演習を通じて交流し、その手法を普及する。現在11の協力団体を指定期間中に50に増やす。 ・海外との交流機会を増やし、4技能全てを高めるための英語教育を行うことで、TOEFL iBT100点以上取得者を60名以上輩出する。 ・課題研究に必要な情報処理を円滑に行うために、情報技術の実践的な国家資格「ITパスポート」を全員が受験し、合格する。 <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>日本の伝統的な価値観を重んじる教育を行ってきた本校は、高い進学実績を誇り、優秀な人材を輩出してきた。その反面、生じてきた課題として、保守的なキャリア志向、英語学習における「話す」能力の未成熟、主体性の不足、情報技術の未習得等が挙げられる。SPを用いた未来予測を高度なレベルで行い、その研究成果を効果的に発表するための力を身につけることで、これらの課題を克服できるという仮説を立てる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>年に2回中間発表会を行い、高校3年次には市のホールを用いて研究発表を行う。各プログラムに関する感想を毎回生徒から集め、編集して開示する。英語版のHPも作成する。協働演習を通じてSPを教材として普及し、共に未来を考えるネットワークを構築する。</p>					
	⑧ -2 課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>テーマ:「シナリオ・プランニングを用いて未来のエネルギー事情を考える」</p> <p>大手エネルギー会社ロイヤル・ダッチ・シェル社が用いたことで有名なシナリオ・プランニングの手法を取り入れた未来予測を、昭和シェル石油(株)の専門家による監修を受けて高校生向けに教材化し、実施する。これは複数の「起こりうる未来のシナリオ」を論理的に創り上げ、未来に備えようという方法論であり、多様な未来の可能性を考えることで、リスクを回避し、より望ましい未来への道筋を模索しようというものである。シナリオを作るプロセスの中で、視野を広げ、多様な「未来を動かす原</p>					

	<p>動力」となる要素を探し出し、それらの重要性や因果関係を考察し、主体的に未来を創り出す力を育成する。高校生の獲得し得る知識には限界があるため、生徒が課題研究として設定する未来予測のテーマを『エネルギー』に絞り、関連する情報を提供していく。</p> <p>SP を実施するためには教科教育の枠を超えた知識や分析力が必要となる。Political、Economic、Societal、Technological の4つのゼミを開講して専門的な視座を獲得する。生徒は1年次に全てのゼミの基礎講座を受講し、2年次にはいずれかのゼミを選択する。SPはこの4つのゼミから数名ずつを集めた10数人の班を一つの単位として実施する。</p> <p>高校3年次には、課題研究の集大成としての研究発表大会を、国内外の協力団体を招いて、生徒主体で実施する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>【実施方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週2時間の総合学習の時間を用い、各学年で以下のように実施する。 <ul style="list-style-type: none"> 高校1年次：『PESTゼミ（基礎）』『GE』『PIT』 高校2年次：『SP』『PESTゼミ』『GE』 高校3年次：『SP』『GE』 ・外部の専門機関（大学、企業、地方公共団体等）や高校と連携し、研究開発内容について監修を求め、協働SP演習を行う。 <p>【検証評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各時間における自他の感想や評価を生徒から集めてポートフォリオ化し、検証する。 ・定期的にポートフォリオをもとにレポートを作成させ、検証する。 ・中間発表会、研究発表大会に各協力団体を招き、評価を求める。 ・定期的な生徒、保護者、職員に対するアンケートを実施する。 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>特になし</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表をより広範囲に効果的に行い、また、国外の協力校とも協働してSPを行うために、『GE (Global English)』の授業を行い、英語の4技能を育成する。 ・研究に要する膨大な情報処理を円滑に行うため、『PIT (Practical Information Technology)』の授業を行い、ビジネスレベルの情報処理技術を身につける。 ・「校内自由研究グランプリ」を実施し、個人単位での研究と発表を行う。 ・国語・英語・情報の授業内容を課題研究に則して改革する。 <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <p>特になし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外連携先の拡充と、そのための専門担当部署の設置。 ・ICT環境の充実として、各HRクラスへの電子黒板とPCの設置。 ・映像研究部の新設。 ・国内修学旅行を、海外への研修旅行に変更。
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>本校は、上記の構想を実施するため、平成27年度よりグローバルコースを新設する。平成27年3月に、新規連携先であるマレーシア工科大学へ研修旅行を行う等、既にそのための取組みを開始している。</p>

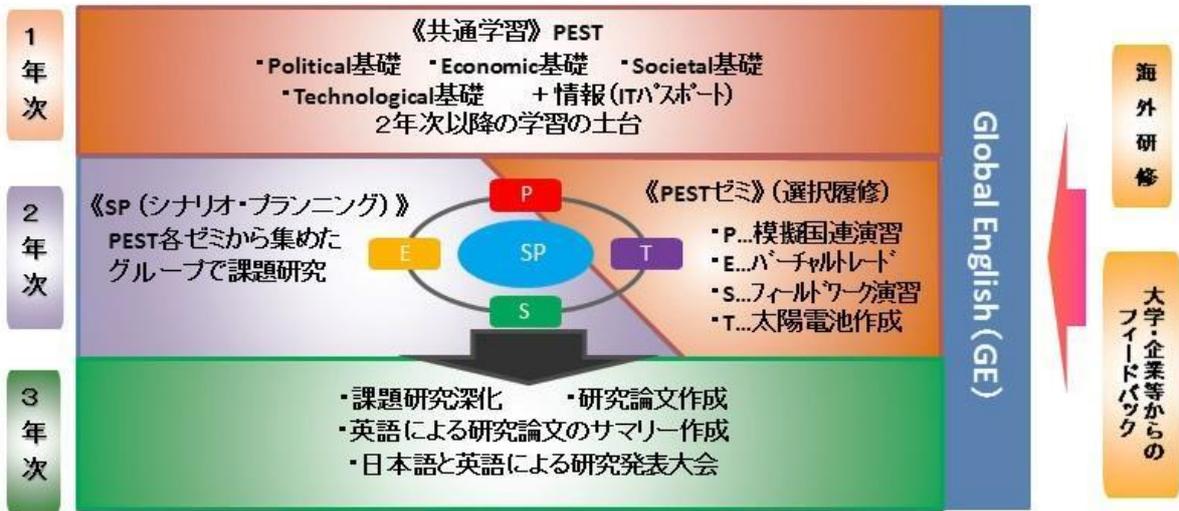
概念図

Seifunankai Gakuen

清風南海学園 SGH(スーパー・グローバル・ハイスクール)

エネルギーの観点から世界の改革を図る！
 —Scenario Planning(シナリオ・プランニング)による—
 未来を創造する産官学グローバルネットワーク構築

- | | |
|---|--|
| 中学校
・主体的な学習習慣
・論理的に考える力
・聞く力 ・話す力 | リーダーとしての素養の獲得
・確かな学力 ・自利利他の精神
・日本文化に裏付けられたアイデンティティ |
|---|--|



「未来を読み解く力」
 課題発見能力
 情報収集・処理能力
 幅広い視野と深い洞察力

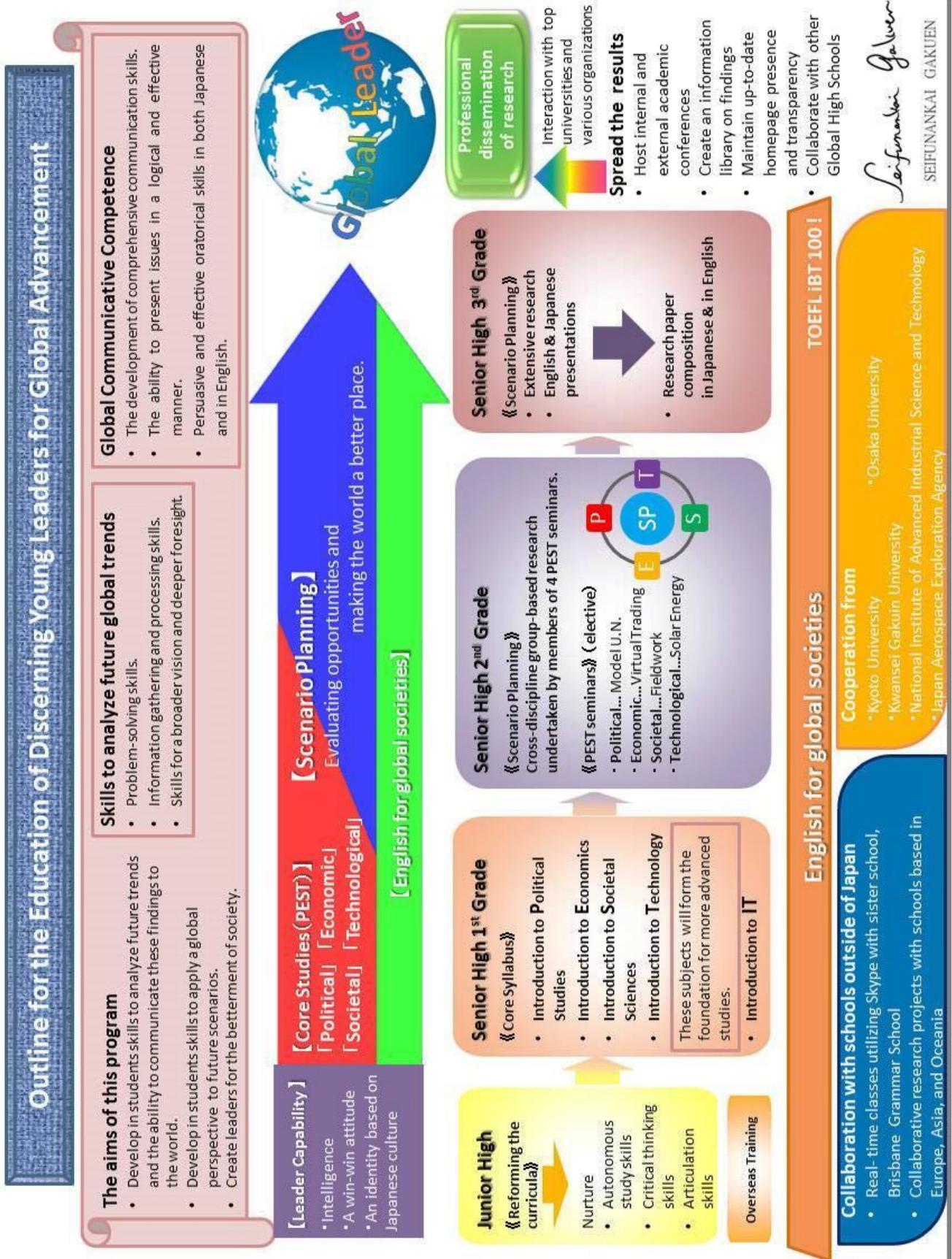
「世界に発信する力」
 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力
 日本語と英語でロジックとレトリックの
 両方を駆使した会話ができる能力

連携・協力・支援
 ・姉妹校Brisbane Grammar School
 ・京都大学、大阪大学、関西学院大学
 ・産業技術総合研究所、JAXA など

目指すグローバルリーダー像
 「未来を読み解く力」と「世界に発信する力」
 を兼ね備えた、地球規模の視野を持って世界
 のあり得べき未来図を描く、社会をより良い
 方向に導いていく者。

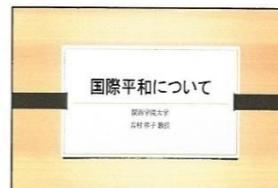


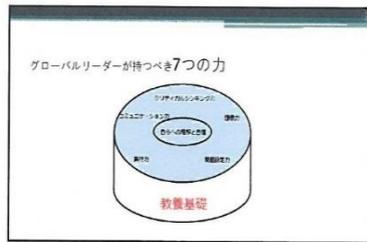
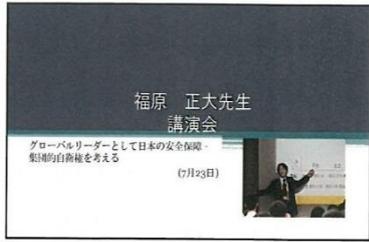
成果の普及
 ・研究会の実施
 ・成果をHPで公開
 ・成果報告書の開示
 ・シンポジウムの開催
 ・研究内容のテキスト化
 ・他のSGH研究校との交流
 ・SP教材の開発



2. 講演会・特別授業

中間発表会における、生徒の発表資料（抜粋）





ルール

	A	B
自分だけ勝つ	勝ち	負け
自分も相手も勝つ	勝ち	勝ち
自分も相手も負け	負け	負け
合計	2:2	-1:8



3. Field Work (フィールドワーク) 等

中間発表会における、生徒の発表資料 (抜粋)



**Political
フィールドワーク**
結果報告
班員 菊木、岸川、植田、辰巳

関西学院大学 校内見学

関西学院大学 吉村先生の講演

吉村先生と大学等の間でグローバルの授業の一環である国際連携についての発表をされた。大学生からのアドバイスでは自分たちの業には差違点がある点もあふことに気づかせられた。そして、大学生の知識の質には感嘆するばかりでした。

立命館大学
グローバル人材のための
思考法ワークショップ

2018年7月11日(土)
立命館大学附属立命館グローバルセンター(京都市)
講師 高田 隆雄 氏

グローバルな思考方法 FW

- ・ディスカッション (マッシュアップセッション)
- ・脳活法 (ブレインストーミング・脳刺激法)
- ・脳活法アプリ センター・ワークショップ

ブレインストーミング法 (brainstorming)

- ・特定のテーマについて参加者全員でアイデアを出し合う
- ・他人の意見に批判せず、アイデアを伸ばせるようにする
- ・大抵のアイデアはダメ
- ・上下関係はなくなる
- ・自分の意見を出しなさい (1人1個)

脳活法

- ・脳活法
- ・ブレインストーミングで出したアイデアを意味の似ているものに分類する
- ・分類にそれぞれ付け加えし書ける (中級)
- ・さらに大分類に集めてみる

京山のアイデアをだすには

まとめ

- ・他人の意見を使って朝に自分の意見を生み出す
- ・分類して考える
- ・とりあえずやってみる



Societal
フィールドワーク
発表

2018年
関西学院大学 京山・グローバル

関西学院大学での活動内容

- 1. 大企業見学
- 2. 京山からの発表もはじまり、ロンドン発表まで7回についてワークショップ
- 3. インタビューの準備

中国人留学生にインタビュー

- ・中国人の学生について

結果のまとめ

- 1. 中国の文化について
- 2. 中国の教育について
- 3. 中国の社会について
- 4. 中国の経済について

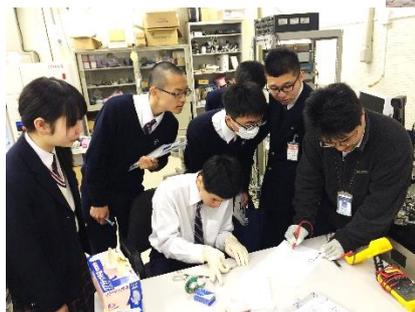
まとめ

- ・国際的なフィールドワークの重要性
- ・中国と日本の文化の違いについて



3月の国内・海外フィールド・ワークにおける、学生・生徒とのワークショップ・討論・プレゼン・講義等のテーマや内容。

行先	日程	連携先	内容
1 国内 (筑波)	16 (水) 19 (土)	筑波大学 スポーツ・バイオ メカニクス研究室	モーションキャプチャを用いた、動作の比較
		産業技術 総合研究所 つくば	午前午後の二班に分かれて、交代で二つのプログラムを実施 生徒発表と、研究者を交えての改善のためのディスカッション 「ものづくり産業に欠かせない計測技術と計測標準について」 「小さなものを見てみよう」
		JAXA 宇宙 センター	「地球観測衛星のデータ利用について」 班ごとに決められた地球規模の課題について、その解決に役立つための新たな地球観測衛星やその利用方法をデザインする。 (参考ホームページ) ●JAXA 地球観測衛星 ●宇宙で活躍する人工衛星たち ●陸域観測技術衛星 2号「だいち 2号」大地の精密検査 ●アジア太平洋地域の災害管理 ●宇宙から地球を健康診断する衛星「しずく」 ●全球降水観測 (GPM) 計画 ●Monitoring Climate Change from Space ●世界初5メートル解像度の3D地図画像
		筑波大学 人文社会科学 学研究科	「知りたいことと研究方法のつながり」 中間発表会及び関学での Societal 発表 2チームが発表し、改善方法についてディスカッションする。



行先	日程	連携先	内容
マレーシア・シンガポール	17 (木) 22 (火)	Universiti Teknologi Malaysia	<p>Presentations by UTM</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Tourism in Malaysia 2. Traditional and modern culture of Malaysia 3. City planning in Malaysia 4. Environmental problems in Malaysia <p>Presentation by SN students</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ School introduction <ol style="list-style-type: none"> 1. Tourism in Japan 2. Traditional and modern culture of Japan 3. City planning in Japan 4. Environmental problems in Japan <p>Discussion in 4 groups based on the following topics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. How to attract tourists more to Malaysia and Japan? 2. How to adjust our own traditional culture to modern society? 3. What we need for a better living environment? 4. How to reduce CO2 or air pollution? <p>Power Point Summary Presentation by all groups.</p>
		St.Joseph's Institution	<p>School introduction by SN student</p> <p>Presentation about</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Tourism in Japan 2. Traditional and modern culture of Japan 3. City planning in Japan 4. Environmental problems in Japan by SN students <p>Discussion in 4 groups based on the following topics</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. How to attract tourists more to Singapore and Japan 2. How to adjust our own traditional culture to modern society 3. What we need for a better living environment? 4. How to reduce CO2 or air pollution <p>Summary Presentation</p>



行先	日程	連携先	内容
3 フィリピン (マニラ)	17 (木) 22 (火)	Colegio de San Juan de Letran	<p>Discussion 1 Each group will talk about Philippine and Japanese cultures, focusing on the difference between them.</p> <p>Presentation Each group will tell us what they have discussed and learned.</p> <p>Discussion 2 Each group will talk about domestic problems or what is often discussed in each country.</p> <p>Presentation</p> <hr/> <p>Lecture by a teacher from Letran A teacher from Letran will give a lecture to the students, providing them with something they have to think about.</p> <p>Discussion 3 Each group will talk about the topic they have learned from the Letran teacher.</p> <p>Presentation</p> <p>Lecture by a teacher from Seifu Nankai A teacher will give a lecture to the students, providing them with something they have to think about.</p> <p>Discussion 4 Each group will talk about the topic they have learned from the Seifu Nankai teacher.</p> <p>Presentation</p>



4. PEST ゼミ（生徒の成果物等）

1) PESTゼミ Political(政治学的分野)

◎「国連弁当」に関する決議案

スイス連邦

前文

この国連弁当は、三つの目的で行われるよう、スイスは提案する。一つ目は、国家間の交流を深めること。各国の代表が、共に同じものを食べるという、めったにない機会を作り出し、食事中に弁当について話すなど、普段の緊張感のある国家間の交流を和やかなものとする。二つ目は、各国の新たな経済効果をうながすこと。国連という場で、存在感をあまり発揮できないような発展途上国が、自国の特産物を食べてもらい知ってもらうことで、新たに貿易関係を生み出すことだけでなく、某国に無かったものが、貿易をすることで手にすることが出来、普及することが可能となる。また、国連弁当の機会を重ねるごとに沢山の国が自国をアピールすることができ、世界全体がつながりやすく、貿易しやすい環境にする。三つ目は、食を囲み楽しむ風習を再確認すること。様々な宗教の国が集まる国連では、食の作法が異なるはずである。しかし、食事とは命の根源にあるもので、そのありがたみは全人類に共通するものである。食文化の違いを理解しようと努め、また、食事ができることに感謝するという考え方や価値観を共有することで、協調性を持った国連活動を促進し、ひいては平和な世界を作るきっかけとする。

主文

- (1) 食器は様々な宗教や文化に対応するためにフォーク、スプーン、お箸を用意する。国連弁当の中身をいれる容器は二つ用意する。一つは、デザート以外を入れるもので、直径 15cm 程度の円形で二段のものとし、材質はキルギス産の高級家具などに使われた木材の切れ端を使用する。木には、調湿効果、防腐効果があるため、食べる時間が遅くなくても、おいしく食べられる。また何度も使用可能なのでゴミの削減につながり、これから先も国連弁当の機会を設けるきっかけとする。容器には、木のおいが食材に移らないよう樹脂でコーティングする。同じ材質のフォーク、スプーン、お箸を使用する。もう一つの容器は、デザートを入れるもので、直径 10cm 程度の球形で、地球をモチーフとしたデザインになっており、冷蔵した後、その温度を保てるよう、金属製とする。

以下を国連弁当の中身、メニューとする。塩(ウクライナ産)、胡椒(ベトナム産)とする。

(2) 野菜のトマト煮込み

材料および生産国はトマト(イラン産)、ジャガイモ(ルワンダ産)、ニンジン(タジキスタン産)、ブロッコリー(グアテマラ産)、ナス(アゼルバイジャン産)、片栗粉(デンマーク産)、塩、胡椒である。カロリーは 280kcal、費用は一人当たり 260 円、健康への影響として、トマトの酸味が消化を助け、グルタミン酸により、食物の味を豊かにしてくれる。調理法として、手で食べる人のことを考え(その場合温度にも気をつける)、とろみをつけたスープにし食材に絡みやすくすることで、全員が同様に料理を楽しめるようにする。野菜を温めて調理するのは、沢山食べられることや、栄養を摂取しやすくなるメリットがある。

(3) 鶏肉の悪魔焼き風（鶏肉をソイミートにすることも可）

材料および生産国は鶏肉(胸肉)(南アフリカ産)、またはソイミート(パラグアイ産)、オリーブオイル(チュニジア産)、塩、胡椒である。鶏肉の場合、カロリーは 651kcal、費用は一人当たり 300 円、健康への影響として、鶏肉(胸肉)は疲労回復に効果がある。オリーブオイルは心筋梗塞や動脈硬化の予防に効く。ソイミートの場合、カロリーは 288kcal、費用は一人当たり 70 円、健康への影響として、ソイミートは大豆を使って、繊維状にしたタンパク質を肉のように見立てた食品

であるので、肉のカロリーの半分以下で、食物繊維やミネラルが豊富であるので、便通改善に効く。国連会議においては、先入観だけで物事を決めつけるということは望ましくないので、あえて料理名だけでは見当もつかない名前の料理にする。鶏肉の悪魔焼き風とは、悪魔のような、スパイシーな味つけを比喻している料理である。事前にアンケートを取り、ベジタリアンの人にもできるだけ、同様の料理を食べてもらえるよう、ソイミートを選べるようにする。

(4) ジャム 8 種類 (全て 2 口分)

地味になりがちなお弁当に彩りを加え、また飽きずに食べてもらえるよう、様々な味のジャムをそろえる。

オレンジ色、マーマレード(モロッコ産)、54kcal、

黄色、アプリコット(ベラルーシ産)、55kcal、

赤色、イチゴ(エジプト産)、54kcal、

紫色、ブルーベリー(リトアニア産)、38kcal、

濃いピンク色、ローズ(ポーランド産)、34kcal、

薄いピンク色、ピーチ(チリ産)、30kcal、

肌色、グレープフルーツ(スーダン産)、30kcal、

茶色、イチジク(アルバニア産)、38kcal、

費用は一人当たり 328 円、健康への影響として、アプリコットはカロチンを多く含み、風邪をひきにくくし、ピーチは体を弱アルカリ性に保ち、頭の回転を速くする働きがあり、グレープフルーツはクエン酸によって、エネルギーを体内に蓄えさせることができる。



(5) パン各種

トースト半分とバターロールとフランスパンを用意する。材料および生産国は米粉パン(日本産)である。カロリーは、トースト半分が 98kcal、バターロールが 95kcal、フランスパンが 85kcal で、健康への影響として、米粉は油の吸収率が低いので、沢山食べても太りにくい。調理法として、小麦粉が禁止の宗教もあるので米粉にした。

(6) トリュフ (アルコールは入っていない)

材料および生産国はチョコレート(スイス産)である。カロリーは 166kcal、費用は一人当たり 136 円で、健康への影響として、チョコレートは疲労回復、集中力の上昇、リラックス効果と様々な効能がある。

(7) 飲み物は天然水(スイス産)とする。健康への影響として、アルプスの美しい水は、ミネラルが多く含まれている。

国連弁当を提案するうえで、一番口にする水を自国のものとしアピールする。

上記の食材は全てハラールの調理法で調理している。ハラールとは、イスラム法上で食べることが許されている食材や料理のことである。

フランス

前文

国連弁当は各国の農産物の安全性と品質の高さを宣伝するのに絶好の機会であり、国連弁当を食べる時間は自国の農産品を売り込むことが出来る時間である。それ故、以下に紹介される生産国以外の国もどんどんアピールするべきだ。

また近年、食の安全が問題になってきている。例を挙げると、禁止農薬の使用、遺伝子組み換え食品の問題、賞味期限の偽装、集団食中毒事件、等々枚挙に暇がない。食の安全への意識を各国が高めていく手段として国連弁当は必須である。

他にも議論の疲れを取り、国際情勢にかかわらず、各国の首脳たちが和やかに話せる機会作りが可能となるため、国際問題の議論がスムーズになるだろう。

結果として、このような目的を持つ国連弁当にはフランスの伝統的食文化や食材が適している。

The UN Bento provides a great opportunity for member countries to promote the quality and

safety of their agricultural products. While eating UN Bento, countries can promote their own agricultural products. Therefore, a lot of countries other than those introduced below are strongly advised to advertise their own products.

Besides, food safety has been a heated issue in recent years. For example, the usage of banned pesticides, genetically modified foods, deceptive representation of food shelf life and incidents of mass food poisoning. The UN Bento is indispensable as a means for every country to develop an awareness of food safety.

In addition to the positive aspects mentioned above, the UN Bento will assist in decreasing the tensions of the participants involved in high-level discussions. It will also act as what would lead to relaxed conversations between members. This would lead to more peaceful talks when the members return to the table no matter what international situations they are faced with.

主文

国連弁当の内容はフルコース弁当とし、中に入れる食材等は以下の通りとする。

(1)前菜はポテトとアボカドのカナッペとする。

材料及びその生産国はそれぞれジャガイモ(ベラルーシ産)、アボカド(ドミニカ共和国産)、オリーブオイル(ギリシャ産)、フランスパン(フランス産)である。カロリーは 151kcal、費用は一人当たり 450 円で健康への影響としてジャガイモはビタミンC,Dが含まれており高血圧や動脈硬化の予防に効き、アボカドはビタミン、ミネラルが各種揃っているため夏バテ予防に良い。

Potato (from Algeria), avocado (from the Dominican Republic), mustard (from Canada), parsley (from Italy) and bread (from France)

124kcal 450 yen (per person)

[Health Benefits] Potato: high in vitamins C and D, effective in the prevention of high blood pressure and hardening of the arteries Vitamins and minerals are good for preventing exhaustion.

(2)スープは豆乳とカボチャのスープとする。

材料及びその生産国はかぼちゃ(エジプト産)、玉ねぎ(パキスタン産)、豆乳(日本産)、パセリ(イタリア産)である。カロリーは 133kcal、費用は一人当たり 194 円で健康への影響としてかぼちゃにはカロテン、ビタミンCが多く含まれているので免疫力増強の効果がある。また、習慣上、手で食べる人の為にパンを添えておく。

Pumpkin (from Mexico), onions (from India), soy milk (from Japan), parsley (from Italy)

133kcal 194 yen (per person)

[Health Benefits] Pumpkin: high in beta-carotene and vitamin C, boosts the immune system. It can be eaten with bread for those who customarily eat with their hands.

(3)魚料理はマグロ・アボカドの燻製サラダとする。

材料及びその生産国はマグロ(エクアドル産)、アボカド(メキシコ産)、わさび・醤油(日本産)、オリーブオイル(ギリシャ産)である。カロリーは 183kcal、費用は一人当たり 912 円で、健康への影響はマグロ、アボカドには EPA(エイコサペタエン酸)や DHA(ドコサヘキサエン酸)、ビタミンA,D,Eが含まれているので、悪玉コレステロールを減らすとともに、脳の機能を高める効果がある。また、オリーブオイルが含んでいるオルレイン酸には整腸や悪玉コレステロールの減少の効果が、クロロフィルには美肌効果がある。

Tuna (from Philippine), avocado (from Spain), Wasabi (from Japan), olive oil (from Italy)

183kcal 957 yen (per person)

[Health Benefits] Tuna and Avocado: high in EPA (Eicosapetaen acid) and DHA (Docosahexaenoic acid), vitamins A, D and E, enhances brain function and reduces bad cholesterol. Olive oil: high in oleic acid which reduces bad cholesterol, promotes micro-organism growth and contains chlorophyll which benefits skin health.

(4)主菜はフランスパンのチキングラタン、または、フランスパンのトマトソースとする。乳製品や鶏を宗教上食べてはいけない人やアレルギーなどがある人はフランスパンのトマトソースを選択することが出来る。

フランスパンのチキングラタンの材料及びその生産国は鶏肉(ブラジル産)、しめじ(日本産)、牛乳及び生クリーム(アメリカ産)、チーズ(スイス産)、玉ねぎ(トルコ産)、フランスパン(フランス産)である。カロリーは 551kcal、費用は一人

当たり 463 円で、健康への影響は玉ねぎには高血圧や糖尿病予防という効果があり、しめじには免疫力を高める効果があるため、生活習慣病予防によい。また、鶏肉は疲労回復として少量で多くのエネルギーを得られる。

Chicken (from Brazil), mushrooms (from Japan), cow milk and fresh cream (from USA), cheese (from Switzerland), onions (from Turkey), bread (from France)

551 kcal 1127 yen (per person)

[Health Benefits] Onion: likely to prevent high blood pressure and diabetes. Mushroom: boosts the immune system and promotes overall health. Chicken: assists in recovery from fatigue. Small portions will provide a lot of energy.

フランスパンのトマトソースの材料及びその生産国はしめじ(日本産)、玉ねぎ(トルコ産)、なす(インド産)、トマト(イラン産)、フランスパン(フランス産)である。カロリーは 275kcal、費用は一人当たり 531 円で、健康への影響はトマトには抗酸化作用による癌予防の効果がある。

Mushrooms (from Japan), onions (from Turkey), Eggplant (from India), tomato (from Iran), bread (from France)

274 kcal 895 yen (per person)

[Health Benefits] Tomato: full of antioxidants which can prevent cancer.

(5)洋菓子はチョコマカロンとする。

材料及びその生産国はアーモンド(アメリカ産)、カカオ豆(コートジボワール産)、卵(米国産)、薄力粉(フランス産)である。カロリーは 450kcal、費用は一人当たり 373 円で、健康への影響はチョコレートには精神的・肉体的に活動的になる効果があり、アーモンドは骨粗しょう症予防になる。

Sugar (from Brazil), almonds (from USA), cocoa beans (from Côte d'Ivoire), eggs (from USA)

450kcal 373 yen (per person)

[Health Benefits] Chocolate: promotes mental and physical health. Almond: prevents osteoporosis.

(6)飲み物は天然水、紅茶、コーヒー、ワインのいずれかから選択可能である。

各飲料の生産国は天然水「カナダ産」紅茶「ベネズエラ産」コーヒー「コロンビア産」である。

You can choose a drink from either natural water (from Canada), tea (from Venezuela), coffee (from Colombia) or wine (from France).

料理の合計カロリー及び費用は以下のようにになっている。

フランスパンのチキングラタンを選択した場合のカロリーは 1468kcal、費用は 2392 円

フランスパンのトマトソースを選択した場合のカロリーは 1192kcal、費用は 2460 円

以上の食材を使用することによって諸生産国の農産物が広く認知され、今後の各国の農産物における経済発展に繋がる。

国連弁当の中身を入れる食器は以下の通りとする。

(1)輪島塗(日本産)

今後の世界の農産物における発展と食の安全問題の解決を実現するために、上記の国連弁当を採用すべきである。

各料理における材料の詳細なカロリー及び費用は以下の通りである。

スープ	かぼちゃ	玉ねぎ	豆乳	パセリ		計
カロリー(kcal)	88	8	35	2		133
費用(円)	70	40	75	9		194

スープ	かぼちゃ	玉ねぎ	豆乳	パセリ		計
カロリー(kcal)	88	8	35	2		133
費用(円)	70	40	75	9		194

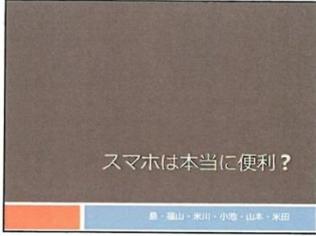
魚料理	マグロ	アボカド	わさび・醤油	オリーブオイル		計
カロリー(kcal)	87	31	6	59		183
費用(円)	543	151	203	15		912

チキングラタン	鶏肉	しめじ	乳製品	玉ねぎ	フランスパン	計
カロリー(kcal)	40	2	253	143	113	551
費用(円)	135	32	147	66	83	463

トマトソース	しめじ	玉ねぎ	なす	トマト	フランスパン	計
カロリー(kcal)	2	143	5	12	113	275
費用(円)	32	66	110	240	83	531

2) PEST ゼミ Societal (社会学的分野)

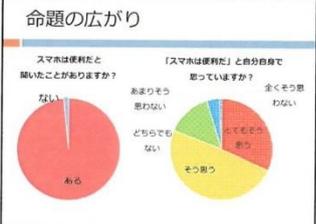
中間発表会における、生徒の発表資料 (抜粋)



命題と仮説

- 命題: スマホは便利だ。
- 仮説: 「スマホは便利」という説があるからスマホを持つが、さほど使いこなせていない。

命題の広がり

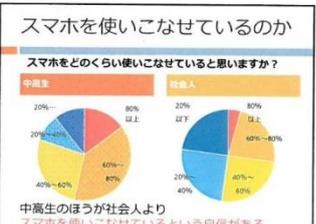


スマホがほしい理由

スマホ所持者、ガラケー所持者にスマホが欲しいと思った(思う)理由をたずねると、圧倒的に**便利だから**という意見が多かった。

スマホは便利だという説は**広まっている**とわかる。

スマホを使いこなせているのか



まとめ

- 「スマホは便利」という説が広まっている。
- 機能を使いこなせていると言いきれない。
- トラブルの増加やマナーの悪化を引き起こす。
- CMや周りの影響が強い
→ 踊らされている



アンケートの例 (めがね君)

グローバルコース S10班 アンケート

クラス() 性別() (名前を書く必要はありません)
以下の内容の質問に正直に答えてください。最も当てはまる番号ひとつに丸をつけてください。

- あなたはメガネやコンタクトレンズを使っていますか。
 - メガネを使っている
 - コンタクトレンズを使っている
 - 使っていない

①の質問で1、メガネを使っていると答えた人に質問です。

 - なぜコンタクトレンズではなく、メガネを使うのですか。
 - コンタクトレンズは怖い
 - 見た目を気にしている
 - 家庭の事情
 - その他()
 - 特になし
 - コンタクトレンズにしたいとは思っていますか。
 - はい
 - いいえ

①の質問で2、コンタクトレンズを使っていると答えた人に質問です。

 - なぜコンタクトレンズを使っているのですか。
 - スポーツをしているから
 - 見た目を気にしているから
 - 家庭の事情
 - その他()
 - 特になし
 - めがねに替えたいと思いませんか。
 - はい
 - いいえ

①の質問で3、使っていないと答えた人に質問です。

 - もし目が悪くなったならどれを使いたいと思いませんか。理由も書いてください。
 - メガネ
 - コンタクトレンズ

理由()
ここからは全員答えてください。
 - 近視の程度を守っていますか。
 - 守っている
 - 大体守っている
 - 少し守らない
 - 大体守らない
 - 今までで、用事があるとき以外で遅刻したことがありますか。(遅坊等)
 - ない
 - 1~3回
 - 4~9回
 - 10回以上
 - 休みの日に勉強をしていますか。
 - ほとんどしていない
 - よくしている
 - たまにしている
 - していない
 - 1日にスマホやタブレットをどれくらい見ますか。(平日)
 - 30分未満
 - 30分~1時間
 - 1時間~2時間
 - 2時間以上

- 授業中に寝転びをしたことがありますか。
 - まったくない
 - 少しある
 - たまにする
 - よくする
- 下の顔の中で、どれが一番まじめだと思いますか。



- なし
 - 丸メガネ
 - 四角メガネ
 - 色ぶらメガネ
- この4人がいたとします。誰がまじめだと思いますか。
 - メガネをかけていてよく話す人
 - メガネをかけていてあまり話さない人
 - メガネをかけていなくてよく話す人
 - メガネをかけていなくてあまり話さない人
 - 同級生に何か質問するならば、どちらに質問しますか。
 - メガネをかけている人
 - メガネをかけていない人
 - もし、眼鏡をかけているならば、同級生からどう思われると思いませんか。
 - まじめ
 - おしなま
 - オタク
 - ちゃん
 - かっこいい
 - ださい
 - その他()
 - わからない/何も思われていない

質問は以上です。ありがとうございます。

近畿地区 SGH 課題研究発表会（於、関西学院大学）における、ポスター発表

タブレット化についての考察

清風南海高校

長岡 玲央奈・安保 貴悠・野崎 はるか

研究の目的

私たちの学校では、タブレット型情報端末（以下「タブレット」）の導入が予定されている。タブレットは、使用方法によっては非常に便利なものであるが、その導入には賛否両論がある。私たちは、生徒のタブレット導入に対する抵抗感を減らすことを目的として、タブレット導入に反対する人々が掲げている理由の一端に生徒間トラブル増加を懸念している、ということが挙げられるのではないかと考え、実際にはタブレットの導入と生徒間トラブル増加には因果関係はない、という仮説を立てて検証することにした。

研究方法

私たちの所属しているグローバルコースでの活動の一環として行った。「当たり前だとされている命題に問って、仮説を立ててアンケート調査による検証を行う」という内容のゼミで学んだことを利用して、タブレット導入と生徒間トラブル増加の関連を調べる。

今回の検証における命題と仮説は次のように設定した。

命題：「タブレットを導入すると、生徒間トラブルが増加する」

仮説：「タブレットの導入と生徒間トラブルの増加には因果関係はない」

これらに基づいて、アンケート項目を設定した。また、アンケートに関しては、2月13日土曜日、清風南海高校新1・2年（タブレット導入予定の2学年）全生徒 617人を対象に計画した。実際には564人にアンケートを行った。

結果

① タブレットを導入しても現状と変化なし

6. 学校指定タブレットを持つようになった後、現在の情報端末はどうなっていますか？
- ① 持っていないし、もっていない
 - ② 持っているが、いづれ欲しい
 - ③ 持っているが不要になるので解約する
 - ④ 解約はしたくないがすることになる
 - ⑤ 現在の端末と学校のタブレットを併用する

9. あなたは学校に携帯電話、スマホを持ち込んだことはありますか？

- ① 持っていない
- ② ある
- ③ ときどきある
- ④ あまりない
- ⑤ ほとんどない
- ⑥ 一度もない

② SNS におけるトラブル

7. あなたは携帯型情報端末を一日にどのくらい利用していますか？

- ① 持っていない
- ② 30分以内
- ③ 1時間以内
- ④ 2時間以内
- ⑤ 3時間以内
- ⑥ 3時間以上

30. あなたは SNS で、どのレベルの重要度の内容をやっていますか？（複数ある場合、もっとも重要だったと思う内容について回答）

- ① しない
- ② 連絡事項
- ③ 意味のない挨拶
- ④ 日常会話
- ⑤ 飲み会の相談
- ⑥ 選挙
- ⑦ その他

31. あなたは現実では距離のない SNS 上での友人はいますか？

- ① いる
- ② いない
- ③ SNS を利用していない

34. あなたは SNS の利用にストレスを感じたことはありますか？

- ① よくある
- ② ときどきある
- ③ あまりない
- ④ ほとんどない
- ⑤ 一度もない
- ⑥ SNS を利用していない

36. あなたは SNS が関係する人間関係のトラブルで悩んだことがありますか？

- ① ある
- ② ない

項目	1	2	3	4	5	6	合計
1	12.6%	30.7%	25.3%	10.2%	10.2%	11%	1
2	8.0%	25.7%	29.1%	19.7%	13.3%	4.0%	2
3	4.3%	4.3%	3.2%	2.1%	4.3%	0.7%	3
4	8.7%	23.6%	23.6%	16.8%	10.2%	16.3%	4
5	17.7%	20.2%	2.7%	42.9%	9.9%	1.4%	5
6	15.9%	57.4%	26.7%				6

③ 情報教育の不足

45. あなたは情報の時間や講演などでの SNS に関する注意喚起について、

新たなバナーの SNS 上のトラブルに対応していると思いますか？

- ① そう思う
- ② どちらかといえばそう思う
- ③ どちらかといえばそう思わない
- ④ そう思わない

④ 情報教育の充実

40. デジタルデバイスとは「情報通信技術を利用して意思を受けると、利用できずに意思を受けられない」ということに関する、知識・機会・資金などの格差のことです。学校の先生、関係の中で、情報格差を感じたことはありますか？

- ① ある
- ② ない

項目	割合
1	64.7%
2	35.3%
合計	100.00%

結論

- 仮説が証明できた
- 情報教育の充実
- タブレット導入で情報格差を軽減



「らしさ」って移り変わる？ 変わらない？

1-A 中島・福山
1-B 大村・小西・林

I) テーマについて

- ・PESTゼミの5(社会学)について
- ・テーマ選定の過程

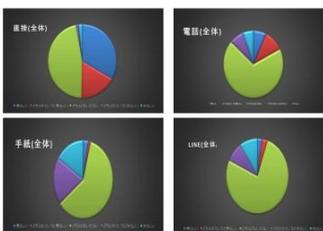
「草食系男子」って言葉はどうして生まれたんだろう？

II) 私たちが行ったアンケート

項目	1	2	3	4	5	合計
1	14.1%	25.4%	32.8%	24.4%		1
2	12.4%	33.6%	20.9%	26.8%		2
合計	12.7%	32.6%	28.2%	26.7%		

III) 集計・考察

○ 恋愛(告知形式)について



○ 社会的要素について

・「政治への関心」について



・「牽引力」について



IV) 結果

- ・仮説立証の是非
- 「らしさ」に対するイメージは大きくは変わっていない
- ・書き出された結論
- 「らしさ」に対するイメージごとの時間は経っても大きくは変わらなかったが、世の中の事象に対するイメージは移り変わっている

V) 感じたこと

- ・中学生と高校生の違いに驚いた
- ・大人の考え方が少なくなっており、考察も偏ったものが多くなってしまった

3) PEST ゼミ Economic (経済的分野)

<生徒の研究レポート>

モニター -ごゆるりといきましょう-

われわれは、映画について興味を持っていたため、映画業界をメインに選び、投資での損失を避けるため、その他のエンターテインメント業界、ゲームや映像業界にも投資しました。結果として映像を扱う会社であるレイが莫大な利益をもたらしました。企業を選択する基準としては、業績や配当利回りを基準にしました。また、研究では、株主優待がよい東宝を選びました。

燃えろ！オレの小宇宙(コスモ)～太陽光発電について考える～

私たちの班はエネルギーと真摯に向き合う情熱を胸に太陽光発電をテーマにしました。太陽光発電は資源が枯渇せずさまざまな場所で利用できるクリーンなエネルギーです。企業選定の基準としてはコスモが燃えているかの判断、つまり情熱が感じられるかに重点を置きました。バーチャル投資を行う上で京セラに注目し、技術力でエネルギーを変えろという理念を基に高い技術を誇っているところに感銘を受け、企業選定しました。

航空産業について ポスター発表班

いま、市場の拡大により注目が集まり、成長を続けている航空機産業について調べてみました。今回は、航空機産業の将来性を重視して企業を選定しました。その結果、新たにMRJを開発し、小型旅客機市場に参入した三菱重工業、ホンダジェットの開発により航空機産業に参入したHONDA、TIME IS ECOを掲げ、時間通りの搭乗・離着陸によるエネルギーの無駄遣いの削減を目指すという取り組みを行っているJALに注目しました。これから、航空機産業は大いに、発展する余地があると思います。

バイオの会社ですバイ！ ポスター発表班

私たちは、現在、石油の枯渇が危惧されている中、身の回りの石油由来製品を継続して使っていくために、石油の代替燃料を見つける必要があると感じました。数あるクリーンエネルギーの中でも、「バイオ燃料」と「水素燃料」を取り上げ、関係する企業を調べ、10社を選びました。中でも、バイオ燃料業界分野と水素燃料業界から1社ずつ、ユーグレナ社とHONDA社に焦点を当てて、企業紹介しました。私たちのレポートを通して、現在のエネルギー業界の現状と日本の取り組みについて知っていただけたらと思います。

もう一度64年の栄光を！ プレゼンテーション班

今回我々は、“東京オリンピック”をテーマにその関連企業に株式投資をしました。われわれが特に重視したのはfree-Wi-Fiなどに関するインターネットセキュリティーです。昨年12月、東京の地下鉄でfree-Wi-Fiが設置され、もうすぐマイナンバー制度も本格的に導入されるなど、インターネット上のセキュリティーが問題視されています。今回は特にこの分野を専門的に投資しました。運用実績なども簡単にまとめました。

観光は世界を広げる

わたしたちの班のテーマがなぜ観光業になったかということ、はじめにエネルギーについてブレインストーミングをしたときにたまたま話題がなぜか東京バナナについて発展し、そこから観光業に決まりました。そしてレポートについては指標において一番得点が高かったHISについての企業紹介を行いました。指標結果についての考察はありませんが、今回を通して観光業についての今の日本の状況を考察することができました。

Made in Japan 世界を救う日本のリサイクル技術 ポスター発表班

石油や石炭などの資源は有限であり石油や石炭などはなくなるだろうと予測されています。また、廃棄物の最終処分場の確保が難しくなっています。そこで、今ある資源を有効活用していかなければいけないと思います。またリサイクルの分野は多岐にわたり、多くの業界へまんべんなく投資ができ、リスクを分散できます。リサイクルに取り組んでいる企業でなおかつCSRに取り組んでいる、キューピーについて調べ、卵の殻を化粧品にリサイクルしていることがわかりました。

New Energy 新エネルギーの開発を支援する

現在日本では、エネルギーを生産するために、火力発電や原子力発電を利用していますが、それらの燃料のほとんどを輸入に頼っています。また、地球温暖化に対する取り組みとして、二酸化炭素の排出量削減が必要となっています。そこで、私たちの班はそれらの問題を解決するために、原子力発電や火力発電に変わる太陽光発電などの新エネルギーを開発している企業を支援しようと考え、それらに仮想投資をしました。

1からのステップ

私達の班はこの授業が始まったとき「はやぶさ2」が話題になっていました。よってその初代となる「はやぶさ」をテーマにしようと決めました。そして、JAXA や「はやぶさ」のHPを見て色々な企業が関わっていることを知り、その後大会社から小会社までリストアップしました。これらの企業から13の企業を選定し、指標から資金の配分比率を決めて資金を配分しました。この経験で今の日本は円高でその反動が大会社の方が大きいことを再確認しました。

Futuring ポスター発表班

私たちは、「近代技術が社会に与える影響」というテーマで企業研究をし、仮想投資を行いました。企業研究では、特にAIについて詳しく調べました。「AIとはどういうものなのか」「今後の社会においてどのような影響を与えるか」、「そのような社会においてどのような人材が必要とされるか」について深く考えました。仮想投資では、指標で独自の判別表を作成することによって今後の運用結果に期待しています。

愛で地球は救われる

現在の日本には、未来での沢山の喜ばしい予定が決まっていっている。そんな中、振り返るべきは愛。我々が生まれる遙か昔のこの地球において、アダムとイブによる愛の力が試されていたことを不意に思い起こした。そんなわけで我々は身近な愛に関連していると思われるブライダル業界への投資を行った。調べていくうちに、現在のブライダル業界は結婚式場等だけではなくセンサー分野からの進出も見られ実際の企業というものを体感することが出来た。

AIR×ENERGY

私たちの班では、航空業界をテーマに仮想投資をすることにしました。なぜなら、班員の多くが航空業界を目指していたからです。また4年後の東京オリンピックが開催されるので、それに伴う新しい企画が会社から出ており、有望だと思ったからです。

必要とされるセンサー

安全が重視される世の中、今私たちの生活を守っていくものはセンサーである。自動ドアなど身近なところにあるものから、宇宙開発にも欠かせないものまであるセンサー。私たちの班は、そんな多種多様なセンサーの種類から、特に「安全」に関するセンサーを作っている会社を調査し、高いシェアを誇る企業から独自の技術力をもつ企業まで吟味し、投資することにしました。

海運業 ～日本を支える大切な基幹産業～

グローバルコースのテーマがエネルギーであることから、エネルギーを輸送する手段として、日々の生活にあまりかわりがないが、日本の製造業を支える基幹産業である海運業に着目した。企業を選定する基準は輸送業、造船業、ターミナル事業、海洋開発、インフラ整備の5項目を重視した。今回、企業研究では造船業をしているIHIと輸送業や海洋開発をしている川崎汽船について調べた。



プレゼンテーション班のレポート要旨

もう一度 64 年の栄光を！
～今こそ日本の力を見せつける時だ～

1. はじめに

私たちは、2020 年東京オリンピックを新しい技術を取り入れた、素晴らしいものにしてほしいと考えています。2020 年の東京オリンピックでは最新のデジタル技術を駆使し、スマホやタブレットなどの通信機器と連動させて今までにないオリンピックが形作られていくのではないかと考えています。実際、過去のオリンピックでも、当時の最新の技術が実用化されました。例えば、1964 年の東京オリンピックでは、新幹線が開通しました。また、2000 年のシドニーオリンピックでは、デジタルカメラが本格的に使用されました。私たちは、今回の東京オリンピックでは、スマホやタブレットなどの通信機器が新しい技術革新にあたるのではないかと考えました。ここで大切になるのが Wi-Fi です。こうしたニーズを、新たなビジネスチャンスとして、企業は新しい事業を始めます。しかしそのためには、多額の事業資金が必要となります。今回、私たちは株式投資というかたちで新しく事業を始める企業を支援したいと考えました。



2. 投資企業一覧

コード	名称	購入価格	割合
9432	日本電信電話(株)	593,450	6.0%
3769	GMOペイメントゲートウェイ(株)	355,800	3.6%
9449	GMOインターネット(株)	397,740	4.0%
6701	NEC	650,960	6.6%
6702	富士通(株)	698,625	7.1%
6634	(株)ネクスグループ	400,800	4.1%
7751	キヤノン(株)	650,300	6.6%
2502	アサヒグループホールディングス(株)	501,800	5.1%
8766	東京海上ホールディングス(株)	544,800	5.5%
7936	(株)アシックス	646,760	6.6%
8411	(株)みずほフィナンシャルグループ	550,290	5.6%
9201	日本航空(株)	694,650	7.0%
4324	(株)電通	449,150	4.6%
1802	(株)大林組	545,760	5.5%
9024	(株)西武ホールディングス	337,740	3.4%
9005	東京急行電鉄(株)	397,155	4.0%
9404	日本テレビホールディングス(株)	544,560	5.5%
8023	大興電子通信(株)	449,975	4.6%
2326	デジタルアーツ(株)	442,900	4.5%
	計	9,853,215	

今回、我々はスマホやタブレットを使用する上で重要になってくる“Wi-Fi”に着目したのでたくさんさんの Wi-Fi 関連の企業に投資しました。その中でも、企業業績が他社と比べて著しく良かった上に、株価も上昇したデジタルアーツに着目しました。

3. 指標（主だったもの）

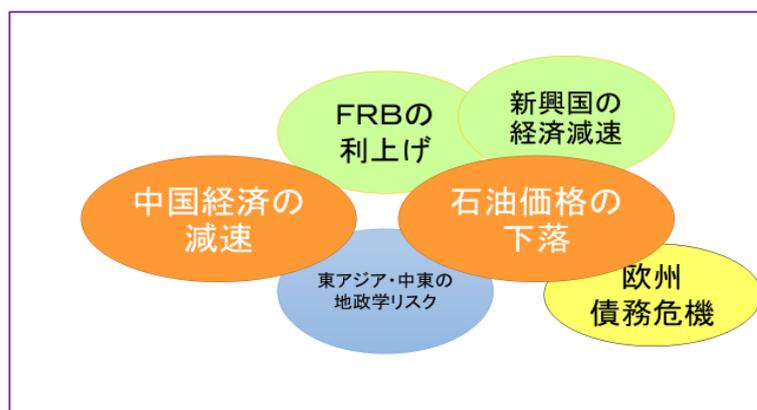
財務&株式	東京オリンピックとの関わり	シェア	CSR	独自視点
ROE	サポーター	HPの具体性	環境への配慮	グローバル化
自己資本比率	活動規模	認知度	労働環境	自利利他の精神
PER	企業内事業規模	他社とのつながり	社会貢献	設備投資
PBR	五輪後の影響	ロゴ	ポリシー	

4. 日経平均株価の変動

中国経済の減速、さらには円高・ドル安の影響などで、日経平均株価同様、私たちが投資した企業も年明けから、大幅に株価が下落しました。

5. まとめ

最後に私たちが今回のバーチャル投資を通して学んだことについて説明します。今回投資した企業に見られた主な株価変動の要因は2つありました。1つ目は過去最高額をつけたデジタルアーツ株のように純利益が最高額になったこと、新製品の世界進出など企業業績に関する好材料によって株価も変動するという事です。2つ目は、今回投資した企業には、著しく悪化した企業はなかったにもかかわらず、業績の維持・回復が株価にあまり反映されず、株価が上がらなかったことです。このことは、株価は必ずしも業績に正比例するものではないという事です。昨年夏、栃木県で発生した鬼怒川の決壊で、多くの家が流される中、白いへーベルハウスだけが流されませんでした。この直後製造元の旭化成株が急騰したこと、企業CMが面白いとか、某通販会社の有名なT元社長のように社長・社員の人柄、イメージが良いなど、企業業績以外の要素も株価に大きな影響を及ぼすものであるという事を学びました。



また、テーマを設定して投資をする場合は長期的な視点が必要であるということも学びました。今回我々が投資先を決めるにあたっての好材料は「東京オリンピック」にあると考え、関連企業に投資しましたが、数年後どうなっているのかについて考えることも株式投資には重要であるということも学びました。

最後に今回学んだ事をまとめます。まず株式投資は人気投票のようなものである。そして長期投資の場合は数年先を読んで投資する長期的な視野が必要であるということ。

このことを踏まえ、私たちの結論としては株式投資というものは、本来なら企業業績の良しあしによる株価変動がおもな要因となるべきところですが、先ほど述べたような企業業績以外の外部要因によっても、左右されることもある、まるで生き物のようなものであるということをおぼろげに学ぶことができました。

4) PESTゼミ Technological (科学技術的分野)

<生徒の発表>

「疑似科学入門」の要約発表会で配布された「手書き」資料の例

4 王
國本島 西原 野村 福山

第4章：科学が不得手とする問題

要素還元主義

系を構成する各要素に分解し、それを理想状態において徹底的に調べる

分析的な手法
ex 人工衛星・電子の運動

複雑系 最大のもの → 地球

ex 気象や気候変動、環境問題、生態系 → 自然の摂理

原因は複雑であるのに無理矢理単純化しようとする

これかよ

思考停止

第3種疑似科学

要素還元主義の考えで理解しようとする

誤解・誤認

相性◎

第3種疑似科学 ♥ 社会構成主義

not 科学の手法や考え方を再検討可はず

but 社会的合意がなされていけいといふ後回し

複雑系 ... 気象や気候変動・環境問題など

◎ なぜ解明できないの?

1. カオス運動
2. 誤差・条件・雑音など
3. 量から質への転化
4. 自己組織化

⇒ 予想することが難しく、原因と結果が単純につながらない

◎ 特徴

- 前もって予想できず様々なこと(時間推移や空間)を考えなければ結果が分からない → 人間には不可能
- 科学は「普遍性」を目指して進む → 不得手な問題に取り組んでいる
- 科学の力をもってすれば何事も解明できるとの過大な期待がもたらしてマインドが動く

温暖化

温室効果ガスの増加

主因 ↓ 逆 ↑

地球温暖化

原因と結果が全く反対の解釈可能

→ どちらが正しいのか証明不能!!

どのよう影響か? 地球に与えるのは予測不能!!

複雑系

◎ 一部分だけ取り出すと科学的なものに思われるが、他にも原因が絡んでいる

⇒ **予測措置原則の導入** ... 「複雑形」の科学で原因や結果が明確に予想できないときに不可知論に持ちこたず、プラスになるかを予想することで危険なものを顕在化させない。

↳ 人間が生きていく上で欠いてはならない新しい原則

第12位
うお座

今まで逃げていた課題に追い詰められる日。
ひとつひとつ丁寧にこなしていった。
ラッキーアイテム: 赤色のハンカチ

疑似科学とは

- 非科学的だが、多くの人が信じている
- 科学的根拠を装っている
- 悪質な商売が多発している
- 大きく三種の分類

池内了著「疑似科学入門」2008年刊

第二種疑似科学とは

- メディアの力を用い、科学を装っている
- 専門用語を用いて科学を装っている
- 確率や統計を利用し、科学を装っている

αリボ糖
酵素水
フェニルアラニン
アミグダリン
コエンザイムQ10
有機ゲルマニウム
ノニ

池内了著「疑似科学入門」2008年刊

第三種疑似科学とは

- 科学と非科学の混在
- 複雑系
 - 天気予報、疫学、電磁波、地震、地球温暖化など現在も研究が続いている

池内了著「疑似科学入門」2008年刊

地球温暖化問題

• 2015 パリ協定
 • 1997 京都議定書

数値目標設定 = 世界的快挙

メディアによると → 地球温暖化は解決が難しい大きな問題

Tのゼミを通じて

メディア	私たち
- 伝える側の意図	- 拡大解釈
- 拡張した情報	- 情報不足

→ メディアも疑似科学に踊らされている日常生活にあふれている

→ 疑似科学は恐ろしい

5. Global English (グローバル・イングリッシュ)

Introducing Japanese Culture

[HAIKU]

I'd like to talk about Haiku. Haiku is one of the Japanese cultural things. It is a kind of very short poetry created in Japan. It was most popular in the 17th century, and even now it is still popular among some people. Now I'm going to tell you a detailed explanation about haiku.

First, haiku is divided into three parts. The first part has five letters, the second part seven, and the last part has five letters. In total, you can use only 17 letters in a haiku! This is the shortest form of poetry all over the world.

Second, look at this haiku; "Furuiekeya Kawazutobikomu Mizunotoo." This is one of the most famous haikus among Japanese people. It was written by Basho Matsuo, a very famous haiku poet. In English, the meaning of this haiku is as this; "A frog is diving into an old pond." It is not a special sight, but haiku poets in such good old days tried to find out beautiful points in quite ordinary sights. Also, you must use at least one "kigo" in one haiku. Kigo means a seasonal word, which shows one of the four seasons Japanese people enjoy. If you don't use kigo in trying to write a haiku, your work will not be recognized as a haiku.

Besides, there are some words which have several meanings in one context in some haikus. They are very difficult to use and very difficult to understand, but if you appreciate such haikus with those words, you will be able to enjoy haiku much more.

[JAPANESE LANGUAGE]

I will talk about the Japanese language. We use three kinds of characters which are called "kanji", "hiragana", and "katakana."

We had not had our own characters until about 1,500 years ago, and then Chinese characters were introduced into Japan. These characters were called "kanji." "Katakana" was created by transforming some fragments of these Chinese characters, and about 100 years ago, "hiragana" was created by simplifying "kanji."

In this way, we created the new characters and have been using them with "kanji" when we write some documents.

A single letter of "Kanji" has a meaning, which means that if you look at a letter of "kanji", you can guess what it means. However, a single letter of "hiragana" or "katakana" doesn't have any meanings by itself. We combine some letters and make a word. In that sense, you can say that "hiragana" and "katakana" are similar to the English alphabets.

All Chinese characters can be changed into "hiragana" and "katakana." Both "hiragana" and "katakana" are used in the same way. However, "katakana" is more often used to express words of foreign origin.

Next, let me explain how to use these three kinds of characters. About a thousand years ago, "kanji" was used by men. "Hiragana" was used only by women. But now all people use these three kinds of characters, regardless of age or sex. Each "kanji" has one meaning and there are thousands of "kanji." Even Japanese people do not know all of them.

To sum up, we use these three kinds of characters when we write something.

It is often said that the Japanese language is difficult for foreign people. This is mainly because of this complicated writing system. Therefore, some people say that it is the most difficult language in the world. However, at the same time, the Japanese language is one of the most interesting languages in the world because of its complexity. Don't you think so?

[KOTATSU]

In Japan, there are four seasons. The months between December and February are the winter season. Winter in Japan is very cold, so there are many ways to keep ourselves from the cold weather. Especially, I'd like to tell you about "kotatsu."

Kotatsu is a low table with a heating device, and it is covered with a comforter called "futon," or a heavy blanket. A board is put on the comforter, and we can put our feet in it and use it as a table. We often eat mandarins (small oranges) at a kotatsu and relax while warming ourselves. Eating mandarins at a kotatsu is a very popular scene in Japan.

Kotatsu has two types. One is horigotatsu and the other is okigotatsu. Horigotatsu is a type of kotatsu whose foot space is built lower than the floor so that you can stretch your legs like you are sitting on a chair when you put your legs into the kotatsu. Okigotatsu is a portable one and we put it on the floor.

Kotatsu is very warm and it makes us feel comfortable and often sleepy. We sometimes fall asleep without noticing it when we use a kotatsu.

Kotatsu gives us a place to enjoy talking. For example, in a famous Japanese animation, a kotatsu appeared as a place where the family got together, ate meals, and talked about various things while enjoying the warmth and the comfort the kotatsu gave them.

Kotatsu is usually a small and low table, so when we are at a kotatsu, we always have very short distances with each other. As a result, we naturally start talking and we become closer and closer with each other. Therefore, kotatsu makes us not only feel comfortable, but also become closer with each other and happier.

Kotatsu is loved by Japanese people and it has become one of the cultural aspects of Japan.

DEBATE

[Topic 1]

Recently, there has been a sharp rise in the number of refugees fleeing war and persecution in countries such as Syria, Afghanistan and Eritrea. According to the UNHCR (United Nations High Commissioner for Refugees), the estimated number of refugees worldwide is about 18 million and growing. In light of this trend Japan should consider changing its strict immigration policy and accept more immigrants and refugees.

Affirmative Construction Speech

We believe that Japan should consider changing its strict immigration policy and accept more immigrants and refugees. We have two reasons to support this claim.

The first reason is that it is natural to help people in trouble. Imagine someone whom you

don't know very well suddenly falls down in this room right now. Will you help that person or not? Imagine you are in your house and someone is knocking on the door and shouting, 'Please help me!' The person is badly injured. Will you help that person or not? Imagine you find a child who hasn't eaten anything for a week. Do you want to share your food with that child or not? I believe all of you are willing to help those people in need. I stated the first reason just now, but actually there's no reason for us to help people in need. It is just quite a natural thing to do. You can put it this way: for the principles of humanity and morals, we must help people in trouble.

The second reason is that if the birthrate remains at the current level, Japan's population will be one-third of the current population in 100 years. And that also means Japan is aging rapidly. Then, we won't have enough workers to support our society. We have a lot of old people who need help and we also have a lot of work to do to support the society, but we don't have enough workers. Japan today is still strong in economy. Japan is still rich, compared to other countries. Now is the time to accept refugees and help those in need. If they join our society now, they will support Japan together with us in the future.

Negative Construction Speech

We are going to be against the idea Japan should accept more refugees. We have 4 reasons.

First, we need too much money to save refugees. We need a large amount of money to save our own people. For instance, Japanese children's poverty rate is 16.3%, and Japan has about 31 million old people. So Japan needs lots of money for Japanese children and Japanese old people. If we have money for saving refugees, we have to improve Japanese poverty first.

Second, Japanese public safety will get worse. This is because if we accept refugees, the peace of Japan will fall into disorder. For instance, just recently, Syrian refugees crowded the East Budapest train station in order to gain passage to Germany. At this time many problems occurred between the peoples, and such things will surely happen in Japan, too. So the fear of Japan losing its peace exists.

Third, the employment opportunities for Japanese people may be suppressed. If refugees come to Japan, they also need jobs. So they will make it more difficult for Japanese people to get jobs and this will produce more unemployed people in the future.

Lastly, we should improve women's employment conditions before trying to save refugees. In Japan many women cannot return to their former jobs after maternity leave. Besides, finding new jobs is very difficult for them.

For these reasons, we believe that we shouldn't accept refugees.

[Topic 2]

Since nuclear power is a reliable technology with a low environmental impact, Japan should make an effort to restart its nuclear power stations as soon as possible in order to cut down on greenhouse gas emissions and in doing so contribute to the global fight against climate change.

Affirmative Construction Speech

We believe that we should use nuclear power for two reasons. Firstly, we will talk about CO2 exhaust. There are a lot of ways of plants to produce electricity.

Let's see the amount of CO2 exhaust produced by each power generation. We checked the data that shows the Japanese CO2 exhaust per 1kwh electricity in 2008. According to a research in 2008, in order to generate 1kwh of electricity, thermal power generation produces 934g of CO2

exhaust, solar power generation 38g, wind power generation 25g, nuclear power generation 20g, hydroelectric power generation 11g. Nuclear power generation produces much less CO2 exhaust than thermal power generation does. And nuclear power generation produces as little CO2 exhaust as natural power generation does. For example, *kannsaidennryoku* stopped using nuclear power plants. As a result, the amount of CO2 exhaust in 2014 was 1.5 times as large as that in 2011. Also, the amount of CO2 exhaust was 1.75 hundred million ton in 2007. That is twice as large an amount of CO2 as all the trees across Japan can consume in the process of photosynthesis. We think that producing as little CO2 exhaust as possible is so important.

Secondly, nuclear power generation can steadily produce electricity. Natural power generation is easily affected by the seasons and the weather. Natural power generation often stops working. But nuclear power generation can steadily produce a large amount of electricity. Natural power generation is good, but we cannot only depend on it. For these reasons we conclude that we need to use nuclear power generation.

Negative Construction Speech

We are going to argue against the idea that we should use nuclear power plants.

We strongly disagree with this idea for two reasons.

Firstly, it may release radioactivity. Radioactivity is very harmful to our bodies. If we get it, our cells will be badly damaged. Therefore, we will suffer from hair removal, mental retardation, cataract, cancer and so on. In fact, when nuclear power plants of Fukushima exploded, radioactivity was released, and quite a lot of people suffered. Five years have already passed since that accident, but even now a very large number of people cannot go back to their hometowns and have to live in very uncomfortable situations. They even don't know when they can return to their hometowns and live in their own houses. As I have explained, nuclear power plants are so dangerous.

Secondly, nuclear power generation will cost too much to maintain. Specifically speaking, the maintenance cost is 1,200 billion yen per year. It is 30 times as high as in the case of thermal power generation, but electric-generating capacity of nuclear power generation is just 20 times as much as that of thermal power generation. It is inefficient. In addition, Monju, a power plant for high-speed breeder, costs 5.5million yen per day for its maintenance.

This is why we firmly believe that we should not use the nuclear power generation system.



6. ポスター発表

第2回中間発表会における、ポスター発表（近畿地区 SGH 課題研究発表会分を除く）

小さなもの観察

1. 課題
 (1) 課題 遠く離れた場所から遠く離れた場所へ送るにはどうすればいいか？
 (2) 目的 遠く離れた場所から遠く離れた場所へ送るにはどうすればいいか？
 (3) 方法 遠く離れた場所から遠く離れた場所へ送るにはどうすればいいか？

2. 観察の目的
 (1) 遠く離れた場所から遠く離れた場所へ送るにはどうすればいいか？
 (2) 遠く離れた場所から遠く離れた場所へ送るにはどうすればいいか？
 (3) 遠く離れた場所から遠く離れた場所へ送るにはどうすればいいか？

3. 観察の方法
 (1) 遠く離れた場所から遠く離れた場所へ送るにはどうすればいいか？
 (2) 遠く離れた場所から遠く離れた場所へ送るにはどうすればいいか？
 (3) 遠く離れた場所から遠く離れた場所へ送るにはどうすればいいか？

4. 観察の結果
 (1) 遠く離れた場所から遠く離れた場所へ送るにはどうすればいいか？
 (2) 遠く離れた場所から遠く離れた場所へ送るにはどうすればいいか？
 (3) 遠く離れた場所から遠く離れた場所へ送るにはどうすればいいか？

Made in Japan リサイクル技術

は世界を救う

～日本のリサイクル技術の世界に輸出しよう～

1. リサイクルを推進し環境とリサイクルの紹介
 ・さまざまな形でリサイクルが行われている
 ・地球温暖化やごみ問題に役立つ技術がある
 ・リサイクルで解決できる？
 ・意外なところで活躍 たとえば車のタイヤの再利用...

2. 日本製の特徴について
 ・高品質な製品を輸出できる
 ・高品質な製品を輸出できる

3. 高品質な製品を輸出できる
 ・高品質な製品を輸出できる
 ・高品質な製品を輸出できる

4. 私たちが得たこと・思ったこと・わかったこと
 ・高品質な製品を輸出できる
 ・高品質な製品を輸出できる

こんなところに旅の素!!

1. 考察1 地理的要素・交通網
 ・東南アジアの中心
 ・工場から都市部へのアクセスの利便性
 ・空港への交通網の整備

2. 考察2 労働力・交通網
 ・ASEAN加盟 法人数
 ・ASEAN加盟 法人数
 ・ASEAN加盟 法人数

3. 考察3 さとうきびの生産量
 ・世界第1位、東南アジアでは最大の生産国
 ・タイは東南アジアにおいて、人口は他の国に比べて、決して多いとは言えない

4. 考察4 日本とのつながり
 ・在日日本人が多い 第1
 ・日本人の多くからの移住がある韓国
 ・山形県産 さとうきび
 ・さとうきびの産地

5. 考察5 日本とのつながり
 ・在日日本人が多い 第1
 ・日本人の多くからの移住がある韓国
 ・山形県産 さとうきび
 ・さとうきびの産地

タブレット化についての考察

1. 考察の目的
 ・タブレット化のメリット・デメリット
 ・タブレット化のメリット・デメリット

2. 考察の方法
 ・アンケート調査
 ・アンケート調査

3. 考察の結果
 ・タブレット化のメリット・デメリット
 ・タブレット化のメリット・デメリット

4. 考察の結論
 ・タブレット化のメリット・デメリット
 ・タブレット化のメリット・デメリット

小さなもの観察

1. 観察の目的
 ・小さなもの観察の目的
 ・小さなもの観察の目的

2. 観察の方法
 ・小さなもの観察の方法
 ・小さなもの観察の方法

3. 観察の結果
 ・小さなもの観察の結果
 ・小さなもの観察の結果

4. 観察の結論
 ・小さなもの観察の結論
 ・小さなもの観察の結論

The Philippines

1. フィリピンと日本の関係
 ・フィリピンと日本の関係
 ・フィリピンと日本の関係

2. フィリピンと日本の関係
 ・フィリピンと日本の関係
 ・フィリピンと日本の関係

3. フィリピンと日本の関係
 ・フィリピンと日本の関係
 ・フィリピンと日本の関係

4. フィリピンと日本の関係
 ・フィリピンと日本の関係
 ・フィリピンと日本の関係

Futuring

1. テーマ
 ・未来技術が社会に与える影響
 ・未来技術が社会に与える影響

2. 目標
 ・未来技術が社会に与える影響
 ・未来技術が社会に与える影響

3. ポートフォリオ
 ・未来技術が社会に与える影響
 ・未来技術が社会に与える影響

4. 企業紹介
 ・未来技術が社会に与える影響
 ・未来技術が社会に与える影響

5. 結論
 ・未来技術が社会に与える影響
 ・未来技術が社会に与える影響

小さなもの観察

1. 観察の目的
 ・小さなもの観察の目的
 ・小さなもの観察の目的

2. 観察の方法
 ・小さなもの観察の方法
 ・小さなもの観察の方法

3. 観察の結果
 ・小さなもの観察の結果
 ・小さなもの観察の結果

4. 観察の結論
 ・小さなもの観察の結論
 ・小さなもの観察の結論

流行の周期-なぜ、人は7年で飽きるのか-

1. 流行の周期について
 ・流行の周期について
 ・流行の周期について

2. 流行の周期について
 ・流行の周期について
 ・流行の周期について

3. 流行の周期について
 ・流行の周期について
 ・流行の周期について

4. 流行の周期について
 ・流行の周期について
 ・流行の周期について

7. その他

教職員による取り組み

○シナリオ・プランニング (SP) 演習①

講師：昭和シェル石油株式会社 チーフエコノミスト 角和 昌浩氏

日時：平成27年5月29日（金） 15:20～19:10

対象：本校SGH担当教員12名

内容：シナリオ・プランニングについての基本的な手法について講演をしていただき、その後、3グループに分かれ、角和氏の指導のもと実際にシナリオ・プランニングを行った。活動中にも、適宜全体に対して要点の解説を行っていただいた。約4時間にも及ぶ研修活動であったが、悪戦苦闘しながらも、和やかな雰囲気の中、時間を忘れさせるほどの充実した内容であった。



○教職員研修

日時：平成27年7月17日（金）

場所：本校視聴覚教室

参加者：全教職員

内容：全教職員に対し、SGH担当教員が1学期間に行った活動を報告し、SGH活動に対する理解を深めた。



○シナリオ・プランニング (SP) 演習②

日時：平成28年1月14日（金）

場所：本校視聴覚教室

参加者：SGH担当教員12名

内容：次年度2年生で始まる「シナリオ・プランニング (SP)」の指導のため、教員の自主研修を以下の内容で行い、より効果的に生徒に学習させるための方法を構築した。

テーマ・課題の設定、未来を動かす「ドライビング・フォース（原動力）」の特定
未来に作用する「分かれ道」となる要因を考え、実際のシナリオを考察

○シナリオ・プランニング (SP) 演習③

講師：昭和シェル石油株式会社 チーフエコノミスト 角和 昌浩氏

日時：平成28年3月23日（水） 13:30～18:00

場所：本校視聴覚教室

対象：本校SGH担当教員15名

内容：来年度のシナリオ・プランニング実施に向けて本校の構想を説明し、角和氏から助言をいただき、その後3グループに分かれて、来年度生徒に提示するテーマを用いてシナリオ・プランニングを行った。その中で指導上注意すべき点や、要点の解説を適宜行っていた。



ホームページ (2016.11.27 公開)

本校 SGH ホームページの構造

トップページ



SGH とは

本校の構想

活動概況

活動報告



スケジュール



全国の SGH

全国のSGH(スーパーグローバルハイスクール)の活動

開催地	学校名	開催時期	テーマ/内容
福岡県	福岡県立高等学校	平成26年	グローバルリーダー育成
福岡県	福岡県立高等学校	平成26年	グローバルリーダー育成
福岡県	福岡県立高等学校	平成26年	グローバルリーダー育成
福岡県	福岡県立高等学校	平成26年	グローバルリーダー育成
福岡県	福岡県立高等学校	平成26年	グローバルリーダー育成
福岡県	福岡県立高等学校	平成26年	グローバルリーダー育成
福岡県	福岡県立高等学校	平成26年	グローバルリーダー育成
福岡県	福岡県立高等学校	平成26年	グローバルリーダー育成
福岡県	福岡県立高等学校	平成26年	グローバルリーダー育成
福岡県	福岡県立高等学校	平成26年	グローバルリーダー育成

GC を目指す諸君に

清風南海 HP

編集後記

清風南海高等学校
SGH プロジェクトチーム

ふと気付くと、いつの間にか清風南海 SGH の 1 年目が終わろうとしています。議論に議論を重ね、考えに考え抜いて構想を立て、周到に準備をして新年度を迎えたつもりでありました。しかし、いざ実際に PEST ゼミが始まり、様々な講演やフィールドワークを実施していくと、なかなか思うようにはいかないことも非常に多くありました。未知の世界を手探りで進み、常に走りながら考えていたように思います。

高校生によるシナリオ・プランニング (SP) の実施と教材化をテーマに、とにかく生徒の成長に資すると思うことをやり続けた 1 年間となりました。

反省し改善すべき点は多々あり、次年度の SP に向けての計画立案という難題も未解決の部分があります。しかし、わずか 1 年に満たない間の生徒諸君の非常に大きな成長は、我々にとって大きな励みであり、今後の成果への確信につながるものであります。

本報告書は、2 回の中間発表会でまとめられた資料冊子を底本に、いくつかの内容を補足して編集したのとなっています。今後このままの形式を踏襲して毎年の「研究開発実施報告書」が編集できるよう、また、詰め込み過ぎることなく余裕を持った誌面作りを心掛けました。

本校 SGH 最初の 1 年間にやったことを、このように形として残すことができ幸いです。創造することの「苦しみと誇りの記録」として、懐かしく見返す日が来ることを願ってやみません。

平成 28 年 3 月

平成 27 年度 スーパー グローバル ハイスクール
研究開発実施報告書 (第一年次)

平成 28 年 3 月
清風南海学園 中学校・高等学校

Tel 072-261-7761

Fax 072-265-1762

<http://www.seifunankai.ac.jp/>